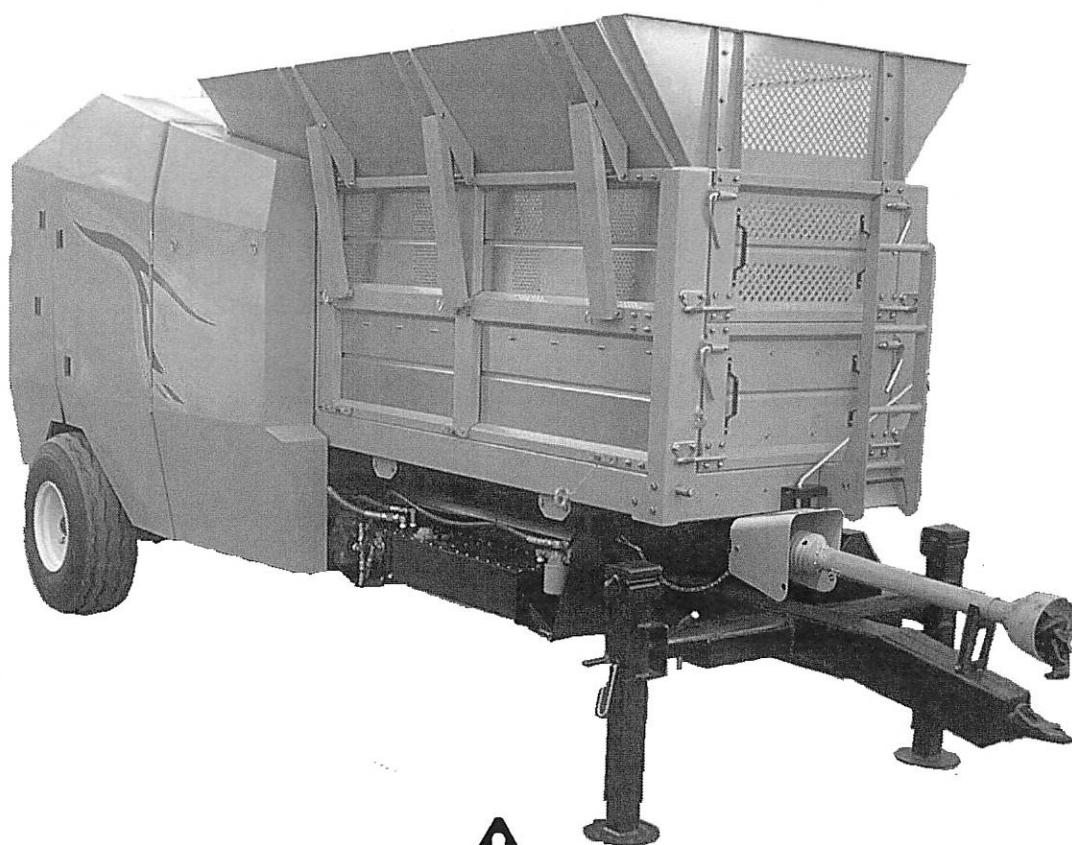


取扱説明書及び部品表

Takakita

細断型ロールベアラ

MR1000



本製品を安全に、また正しくお使いいただくために
必ず本取扱説明書をお読みください。
お読みになった後も大切に保管してください。

株式会社 **タカキタ**

は じ め に

このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。

この取扱説明書は、**細断型ロールペーラ**の取扱方法と使用上の注意事項について記載してあります。ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みの上、正しくお取扱いただき最良の状態でご使用ください。

- お読みになったあとも**必ず製品に近接して保存**してください。
- 製品を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買い上げの販売店または当社にご注文ください。
- 本書は、**注意**として知っておくとお得な製品の性能や、製品自体の損傷防止に関する留意事項を書いています。
- なお、本製品については不断の研究成果を新しい技術として直ちに製品に取り入れておりますので、お手元の製品と本書の内容が一致しない場合もありますので、あらかじめご了承ください。
- ご不明なことやお気付のことがございましたら、お買い上げの販売店または当社にご相談ください。

警 告 サ イ ン

 印付きの下記マークは安全上、特に重要な項目ですので、よく読んで必ずお守りください。

 **危険** その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

 **警告** その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

 **注意** その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

目 次

 安全に作業するために	1
本製品の使用目的とサービスについて	12
各部の名称とはたらき	13
トラクタへの装着	17
1. 装着のしかた	17
2. ユニバーサルジョイントの取付け	17
3. コントロールボックスの接続	18
運転に必要な装着の取扱い	20
1. タイトチェン注油装置の取扱い	20
2. 満了感知装置の取扱い	20
3. シリンダストップバルブの取扱い	20
4. 梱包圧の調整方法	21
5. ネット装置のスライド	21
6. ネットをセットする	22
7. 使用時にこれだけは守りましょう	23
8. 使用できるネット	23
作 業 方 法	24
1. 作業手順と要点	24
2. ベールカウンタのリセット	25
作業前・作業後の点検について	26
点検一覧表	26
簡単な手入れと処置	27
1. タイヤの空気圧調節及び摩擦、損傷	27
2. タイトチェンの張り調整	27
3. ヒューズの交換	28
4. シェアボルトの交換（ジョイント）	28
5. 油圧作動油	28
6. 電装系の確認	29
7. 感知センサの確認	29
8. チェンの注油	30
9. 清掃	31
10. ミッションオイルの交換	32
11. 車輪止め	32
12. オイルフィルタの掃除	32
13. 長期格納時の手入れ	32
14. タイトバーボルト・ナットの点検	33
15. グリスアップ・グリス塗布・注油	34
不 調 診 断	35
付 表	37
1. 主要諸元	37
2. 主な消耗品	38
3. 油圧回路図	39
4. 電気回路図	40

⚠ 安全に作業するために

取扱説明書と本機に貼ってある⚠ 表示ラベルをよく読み、機械の使い方をよく理解した上で使用してください。また、機械を点検して異常がないかを確認してから使用してください。

機械を他人に貸すとき、または他人に運転をさせるときは、運転の仕方を教え、本書も貸与し必ず読んでもらってください。

1. 本機を使用するにあたって

(1) 使用する人の条件

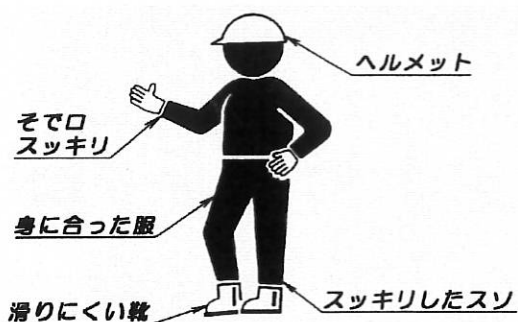
次の項目に該当する場合は本機を使用しないでください。

- 飲酒したとき。
- 過労・病気・薬物の影響・その他の理由により正常な運転ができないとき。
- 妊娠しているとき。
- 取扱方法を熟知していない人。



(2) 使用する人の服装

機械に巻き込まれたり、滑って転倒したりする事故を予防するため、首巻き・腰タオルをしないで、ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、だぶつきのない作業に適した服装で安全な作業をしてください。



(3) 適応トラクタ以外への装着厳禁

下記の装着条件に合致するトラクタ以外には装着しないでください。

● 適応トラクタ馬力 (kW {PS})

型 式	適 応 ト ラ ク タ
MR1000	22.1~73.6kW (30~100PS)

- 装着方式 : ドローバ
- PTO回転速度 : 400min⁻¹(rpm)
- 電源用バッテリー : DC12V

(4) 装着時の前後のバランス確認

トラクタに装着（連結）した作業機の最大積載状態において、トラクタ前輪にかかる荷重は、総重量の20%以上前輪に作用していることが必要です。もし、不足するときはトラクタ指定のフロントウエイトを取付けて、20%以上を確保するか、できなければ装着（連結）しないでください。

(5) バランスウエイトの取付け

トラクタのバランスウエイトは指定された部分に指定されたウエイト以外は取付けしないでください。



安全に作業するために

(6) 機械の改造厳禁

純正部品や指定以外の部品を取付けないでください。

また、改造をしないでください。

(7) 使用目的以外への使用禁止

本機は、細断されたコーン及び牧草をロール成形型する作業を目的として作られた機械です。

他の目的には使用しないでください。

(8) 機械を他人に貸すとき

取扱方法をよく説明して、使用前には『取扱説明書』を必ず読むように指導してください。



2. 点検・整備をしてください

(1) 1年毎の定期点検・整備を

整備不良による不具合や事故を防止するために、1年毎に定期点検・整備を受け、機械が最良の状態で作業ができるようにしてください。



(2) 作業前の点検・整備を忘れずに

ご使用になる前と後には必ず点検・整備を行ってください。

(3) 点検・整備・掃除をするとき

点検・整備・修理・掃除をするときは、交通の危険がなく、機械が転倒したり、動いたりしない平坦で安定した場所で、PTOを切り、トラクタのエンジンを停止させ、駐車ブレーキまたは車止めをしてから行ってください。

(4) ナイフに注意すること

ナイフ類は、絶対に素手で触れないでください。必ず手袋などの保護具を着用してください。



(5) 機械を常にきれいに

火災予防と性能維持のため、回転部への草などの巻付きやたまりを取除き、機械を常にきれいにしてください。

(6) 排気ガスには十分注意

屋内などでエンジンを始動するときはエンジンの排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあります。

エンジンの始動は、風通しのよい場所で行い、やむをえず屋内で始動する場合には、十分換気を行ってください。



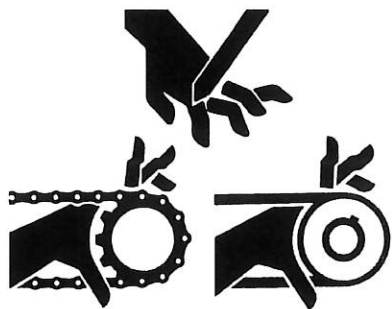


安全に作業するために

(7) カバー類を必ず取付ける

カバー類などの防護装置を取外すときは、必ずP T Oを切り、エンジンを止めてから行ってください。

また、取外したカバー類は必ず元どおりに取付けてください。守らないと、傷害事故を引き起こす恐れがあります。



(8) 注油・給油するときは

チェーンへの注油は、必ずP T Oを切り、エンジンを止めてから行ってください。

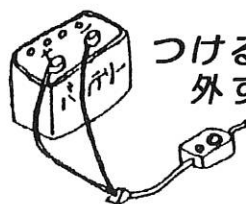


(9) コントロールボックスの電源脱・着は

トラクタのバッテリーより電源を取り出します。

その取付け方法は、(+) 側から行ってください。

外す時は、(-) 側から行ってください。逆にすると火花が飛び危険です。



つける時は (+) 側から
外す時は (-) 側から



(10) タイヤの点検・修理をするときは

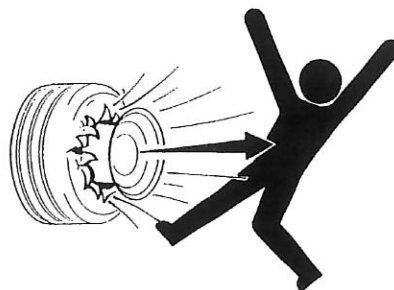
①タイヤの空気圧は、規定の空気圧を必ず守ってください。

②空気の入れ過ぎはタイヤ破損の恐れがあり、死傷事故を引き起こす原因になります。

③タイヤに傷があり、その傷がコード（糸）に達している場合は使用しないでください。

タイヤ破損の恐れがあります。

④タイヤ・チューブ・ホイールなどに関する交換・修理などは十分な整備施設をもち、特別教育を受けた人がいるタイヤショップ等の専門店で依頼してください。





安全に作業するために

(11) 長期格納するときは

機械を清掃し、回転部及びチェーンには十分注油して、屋内の平坦な場所に保管してください。

コントロールボックスは屋内の乾燥した場所に保管してください。

3. 作業・移動をするときは

(1) 人や動物を近づけない

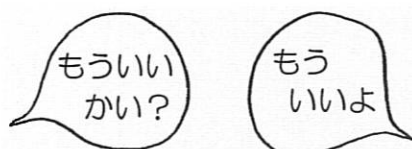
特に子供には十分注意し、近づけないようにしてください。

(2) PTO回転中は危険です

回転部には近寄らない、触らないを守ってください。

(3) 二人以上で作業するときは

二人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。



(4) エンジンを始動するときは

PTOを切り、変速レバーを中立にし周囲の人に合図をして安全を確かめてからエンジンを始動してください。守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。



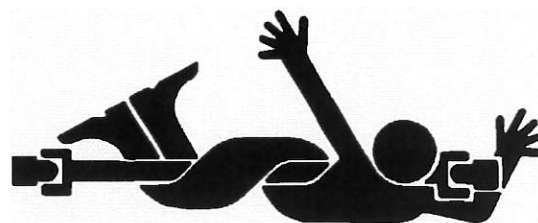
(5) 急な発進・停止・旋回・スピードの出しすぎ禁止

スピードの出しすぎ、急な発進・停止・旋回は、事故の原因となるだけでなく、機械の寿命も縮めますので行わないでください。

また、起伏の多いほ場や傾斜地は、危険です。作業スピードは極力落として作業を行ってください。

(6) 回転中のユニバーサルジョイントには触れない

回転しているユニバーサルジョイントに、手や足で絶対に触れないでください。巻き込まれ重傷を負うことがあります。



(7) 傾斜地を移動するときは

次のことを必ず守ってください。

① 斜面の等高線に平行、または斜めに走行すると横転の危険があります。

斜面の移動は、必ず等高線に直角方向に走行してください。

② 傾斜地で旋回するときは、速度を落とし、急ハンドルを切らないでください。守らないと、転倒する危険があります。

③ 過負荷がかかり機材を破損させる恐れがありますので、傾斜地での作業はやめてください。



安全に作業するために

- (8) 移動及び作業の旋回のときは
トラクタに本機をけん引して旋回する
ときは、内輪差が生じるので十分注意
してください。急旋回は危険ですので
行わないでください。

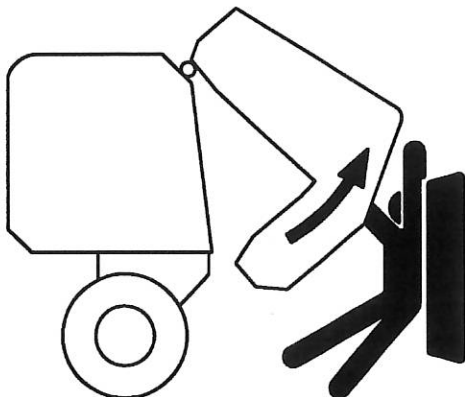


内輪差あり

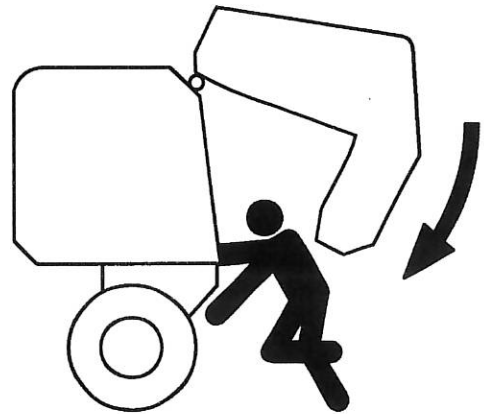
- (9) シェアボルトの交換のときは
P T O を切り、エンジンを必ず止め、
回転部が完全に停止してから行って
ください。



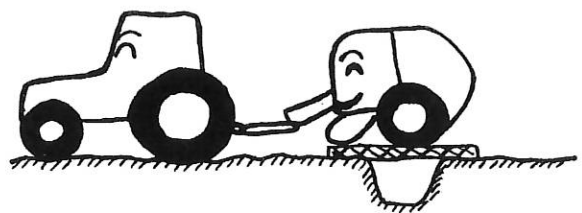
- (10) ロールベールを放出するときは
ロールベールの放出は、後方に人がい
ないことや、障害物のないことを十分
確認し、放出距離を考慮して放出して
ください。



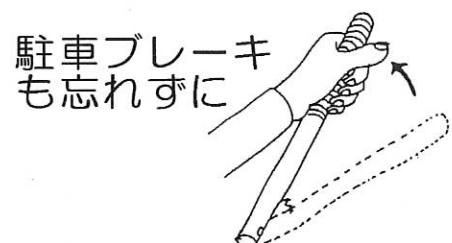
- (11) チャンバーを開けて作業するときは
シリンダーバルブを必ず左右共にロッ
クしてください。おこたると重大な傷
害発生のおそれがあります。



- (12) 溝や畦を横断したり軟弱な所を通
るときは
スリップや転倒による事故を防ぐため
に、幅・長さ・強度が十分あるスリッ
プしないアユミ板をかけ、最低速度で
通ってください。



- (13) 作業途中で運転席より離れるときは
平坦な場所に停止し、P T O を切り
エンジンを止め、駐車ブレーキを掛け、
本作業機側に車止めをしてください。

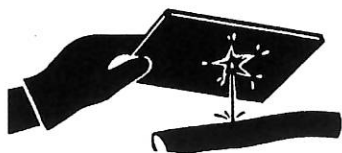




安全に作業するために

(14) 高圧油に注意してください

- ①圧力がかかり噴出した油は、皮膚に浸透する程の力があり、傷害の原因になります。
- ②高圧油による傷害を防止するために配管・ホースなどの取り外し前には必ず残圧を抜いてください。
- ③圧力をかける前に配管・ホースなどは正しく確実に締め付けてください。
- ④非常に小さな穴からの油漏れは、ほとんど目に見えないことがあります。手で油漏れを探すことは止めてください。必ず、保護メガネをかけ、紙などを使用して調べてください。



- ⑤万一、油が皮膚に浸透したときは、強度のアレルギーを起こす恐れがあるので、すぐ医師の診療を受けてください。

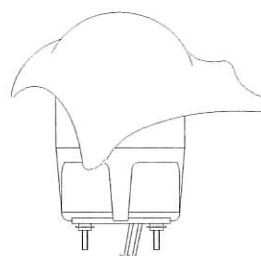


(15) 高温油に注意してください

- ①高温油による傷害を防止するために、作業直後の注油やミッションのオイル交換はしないでください。作業前か十分温度が冷えてから行ってください。
- ②火傷やケガを負った場合は、速やかに医師の診療を受けてください。



- (16) 回転灯が点灯している時に、紙や布などの燃えやすいものをかぶせないでください。発火の原因となります。





安全に作業するために

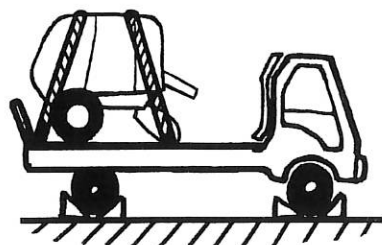
4. 道路走行・輸送するときは

(1) トラクタに装着しての公道走行禁止

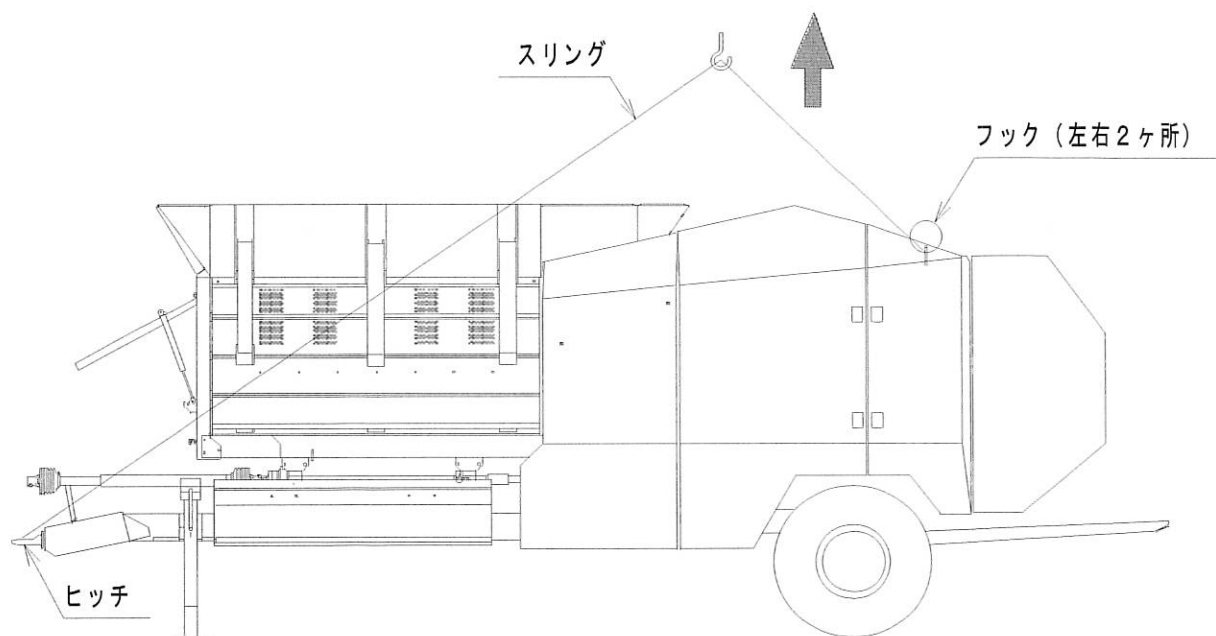
トラクタに本機を装着して公道を走行すると、道路運送車両法に違反します。
トラクタに装着しての走行はしないでください。

(2) トラックなどへの積込み・積降ろしは平坦な場所で トラックが移動しないようエンジンを止め、サイド ブレーキをかけ、車止めをしてください。

積込んだ機械は車止めをし、強度が十分にあるロープ
で確実に固定してください。



(3) 機材の吊り上げは必ず指定の要領に基づいて行ってください。

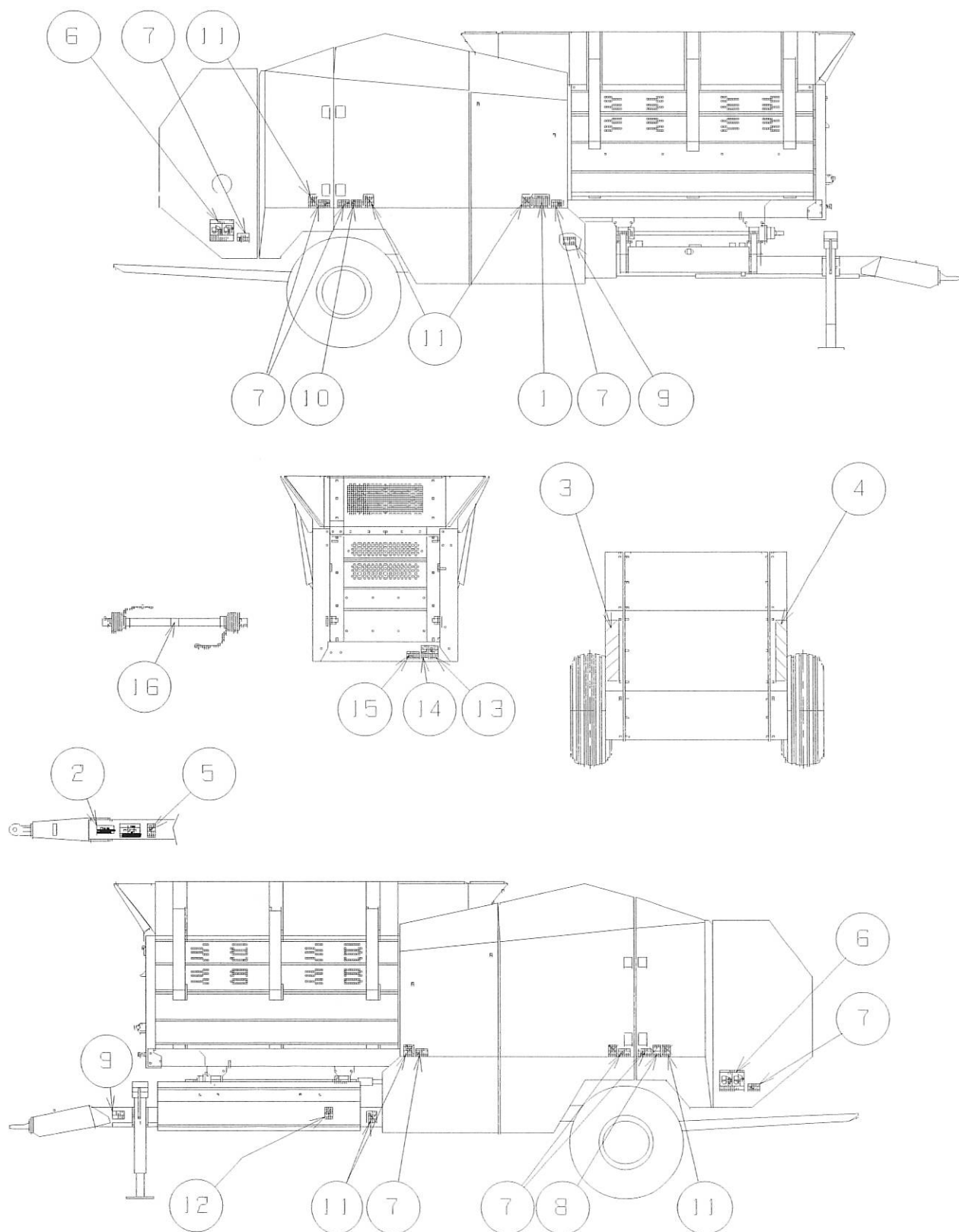


以上、機械の取扱で注意していただく主だった事項を記載しましたが、これ以外にも
本文の中で  印を付けて安全上の注意事項を表記しております。



安全に作業するために

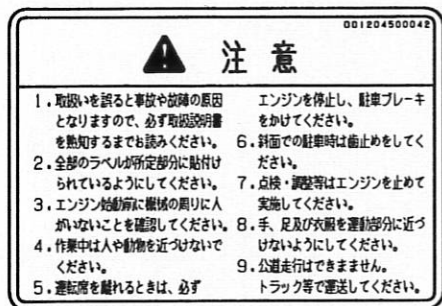
5. 警告ラベルの貼付け位置



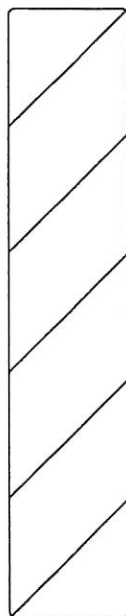
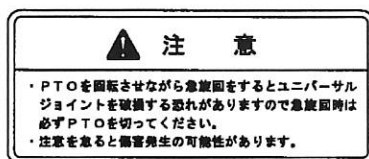


安全に作業するために

①部品コード 001204500042



②部品コード 001204500672



⑤部品コード 001206001020



⑥部品コード 001206001350



⑦部品コード 001206000800





安全に作業するために

警告ラベルの取扱い注意事項

- (1) 警告ラベルはいつもきれいにして傷をつけないように、また汚れている場合、中性洗剤で洗い、軟らかい布で水気を拭いてください。
- (2) 傷ついたり、汚れたり、はがれた場合は、お買い上げの販売店又は当社に注文し新しいラベルを元の位置に貼ってください。
(ラベルをご注文の際は部品コードをご連絡ください。)
- (3) 警告ラベルが貼ってある部品を交換する場合は、新しいラベルを注文して元の位置に貼ってください。
- (4) 新しいラベルを貼る場合は、汚れを拭き取り、乾いた面に貼ってください。
気泡は隅の方へ押しながら抜いてください。

本製品の使用目的とサービスについて

本製品の使用目的について

本製品は、細断されたコーン及び牧草の梱包にご使用ください。

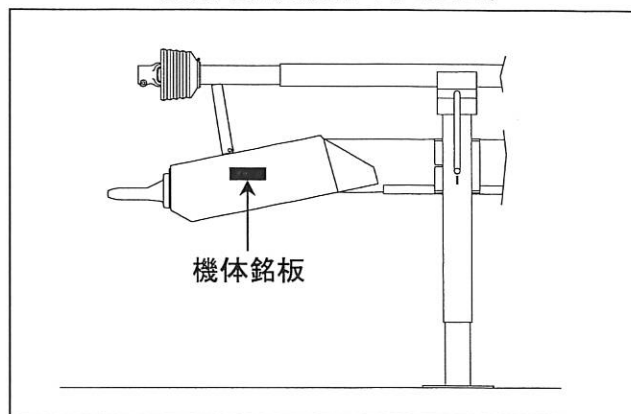
使用目的以外の作業や改造などは、決して行わないでください。

使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりません。

(機体銘板貼付け位置図)

アフターサービスについて

機械の調子が悪いとき、不調診断に従って点検・処置しても、なお不具合があるときは、お買い上げいただいた販売店、農協、または、お近くの当社営業所までご連絡ください。



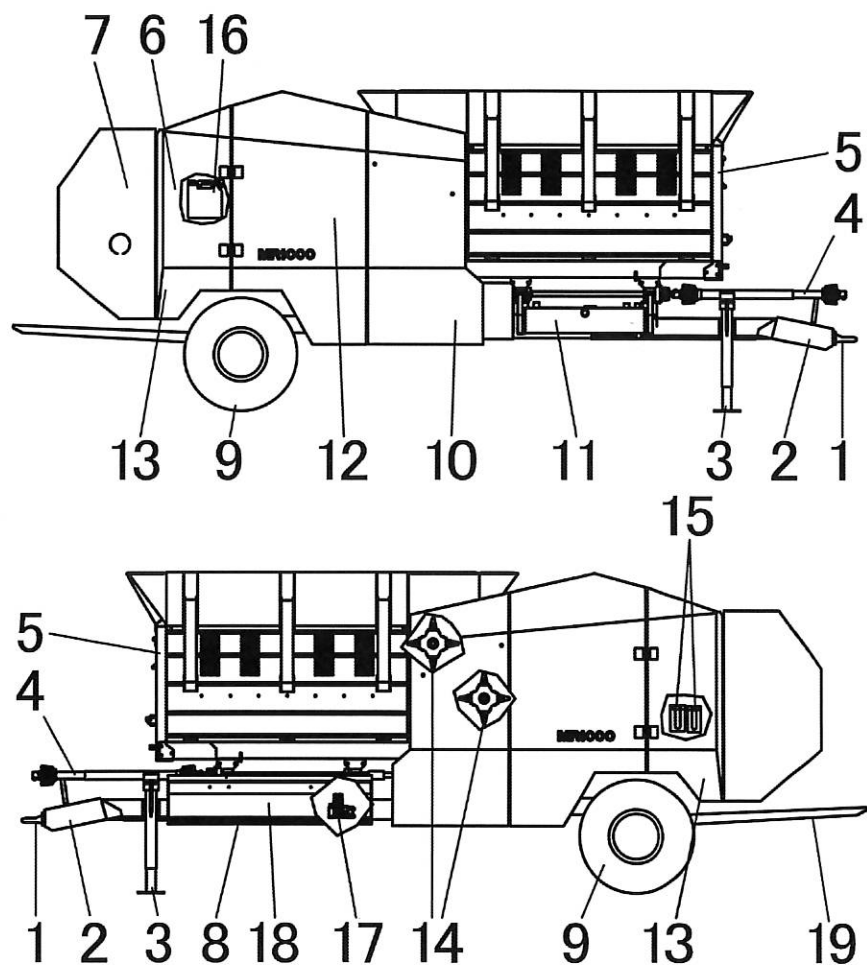
【連絡していただきたい内容】

- 品名と型式
- 機体 No. (SER-No.)
- ご使用状況は？ (どんな条件でどんな作業をしていたときに)
- どれくらい使用されましたか？ (約〇〇アール、または約〇〇時間使用后)
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しく教えてください。

【今後参考のため、次の空欄に機体 No. などを記入しておいてください。】

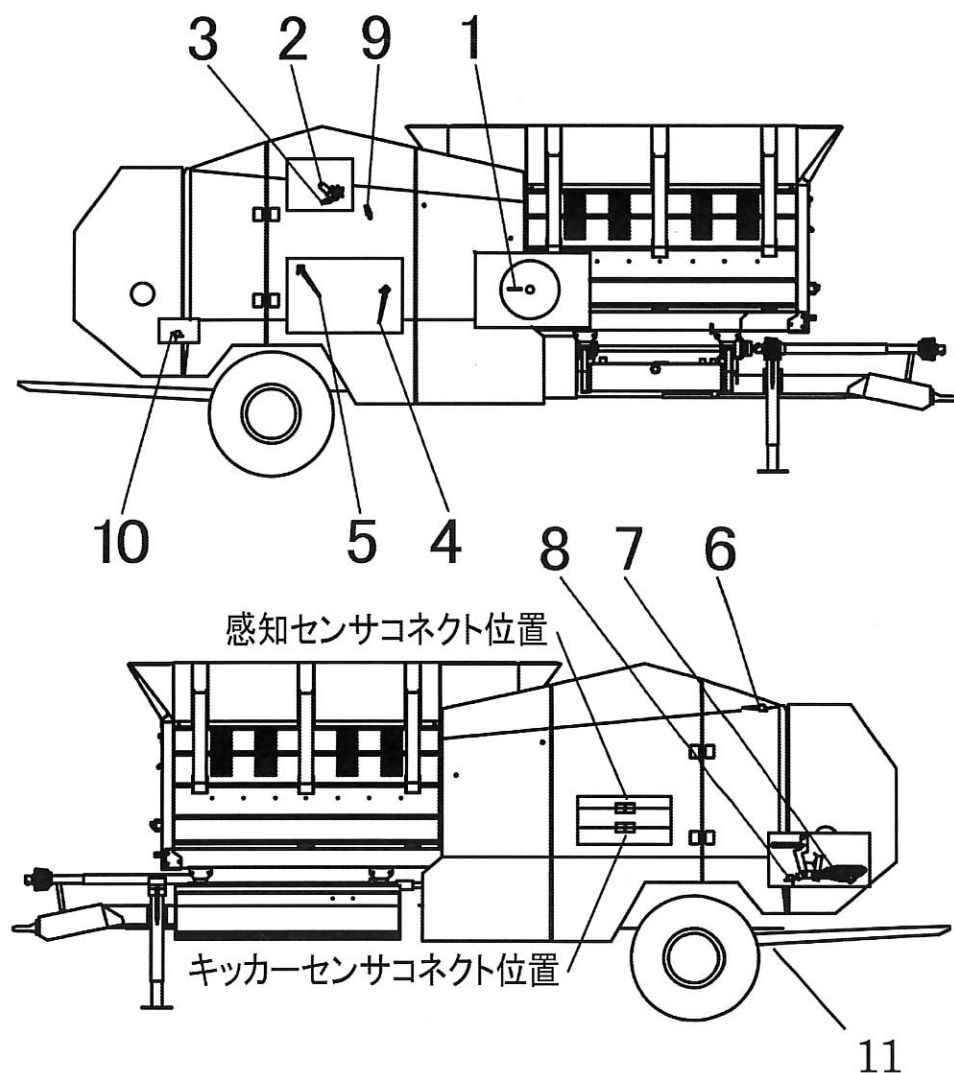
品名	細断型ロールベアラ		
型式	MR1000		
機体 No. (SER-No.)			
購入年月日	年	月	日
販売店名	TEL : ()		

各部の名称とはたらき（コントロールボックス）



番号	名 称	は た ら き
1	ヒッチ	トラクタと連結する。
2	けん引フレーム	全体の構造部を保持する。
3	スタンド	ヒッチを上下する。トラクタの脱着時及び保管時に使用する。
4	ユニバーサルジョイント	トラクタからの動力をつたえる。
5	ホッパー	収穫物を投入します。
6	フロントチャンバー	成形室の前部分
7	リアチャンバー	成形室の後部分
8	ネットボックス	ネットを収納する。
9	タイヤ	低圧広幅タイヤでほ場を傷めません。
10	油圧ポンプ	トラクタの動力より油圧を発生させる。
11	油圧タンク	油圧作動油を入れます
12	ネット装置	ネットでロールベアラを梱包する。
13	シリンダーストップバルブ	リアチャンバーを上げて点検するときシリンダーストッパーで固定する。
14	アジテータ	ネットホサキセンサによる制御で収穫物を送り込む。
15	車輪止め	駐車時に車輪止めをしてください。
16	注油タンク	タイトチェーンへ給油するオイルを入れます（エンジンオイル 5W-30又は10W-30を4ℓ）
17	バルブ操作レバー	本機側でチャンバーなどを操作する手動レバー
18	手動注油装置	注油レバーを下げると、ホンプの駆動2列チェーン（2箇所）に注油することができる。（エンジンオイル5W-30又は10W-30を1.5ℓ）
19	キッカー	ロールベアラの放出を補助します

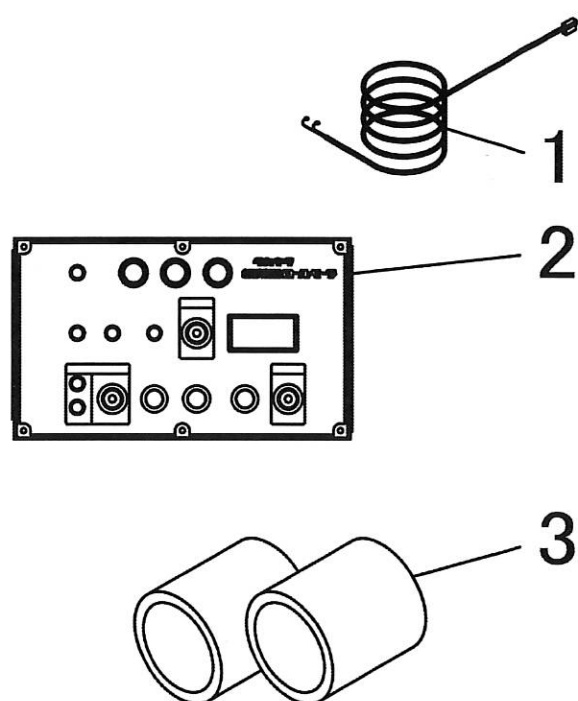
各部の名称とはたらき（コントロールボックス）



番号	名 称	は た ら き
1	アジテータ回転センサ	アジテータの回転を見るセンサ
2	電動モータ	カムを回転させるモータ
3	カムスイッチ	カムが一回転したことを見るスイッチ
4	ホッパーホサキセンサ	材料が流れていることを見るセンサ
5	ネットホサキセンサ	コンベアを止める・ネット巻きを見るセンサ
6	開センサ	チャンバーが開いている事を見るセンサ
7	感知センサ	チャンバー内の材料の満了を見るセンサ
8	チャンバー閉Lセンサ	チャンバーが閉じている事を見るセンサ
9	ネット残量センサ	ネットが残り少なくなった事を見るセンサ
10	チャンバー閉Rセンサ	チャンバーが閉じている事を見るセンサ
11	キッカーセンサ	ロールを放出した事を見るセンサ

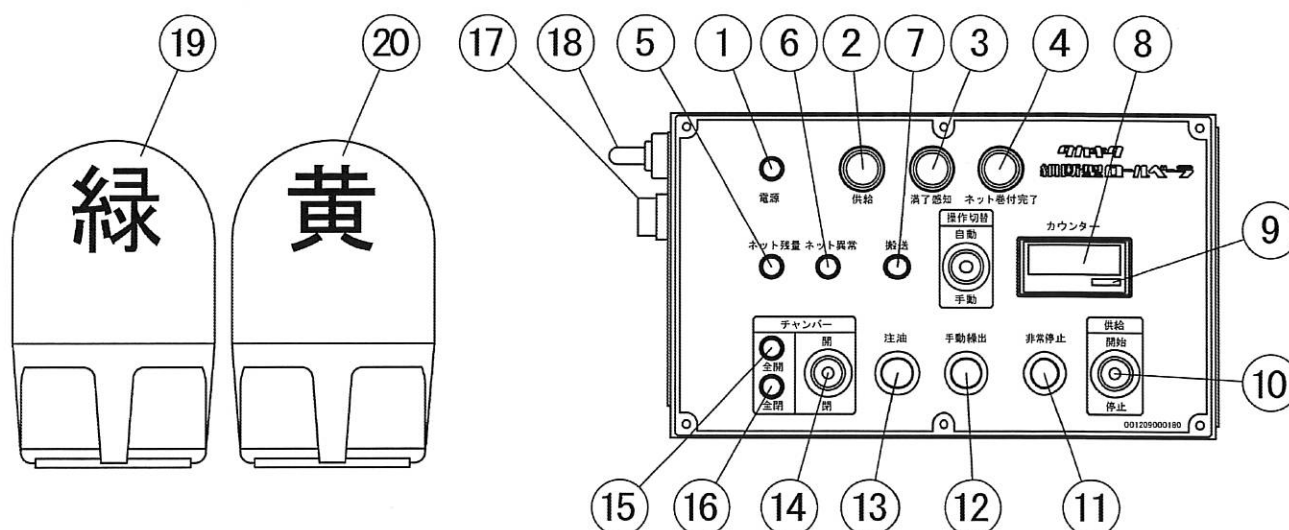
各部の名称とはたらき（コントロールボックス）

付属品



番号	名 称	は た ら き
1	電源コード	バッテリーより電源を取出します。30Aヒューズ付。
2	コントロールボックス	ロールペーラの作動を制御する
3	1mネット用カラー	1m幅ネットを装着する際使用する。

各部の名称とはたらき（コントロールボックス）



番号	名 称	は た ら き
1	電源ランプ	電源が入っている時赤く点灯
2	供給ランプ	ロール成形中に点灯
3	満了感知ランプ	満了を感知してからチャンバーが開くまで点灯
4	ネット巻付完了ランプ	ネット巻付を完了してからチャンバーが開くまで点灯
5	ネット残量ランプ	ネット残量が少なくなると赤く点灯
6	ネット異常ランプ	ネット装置に異常が発生したときに点灯
7	搬送ランプ	ロール成形中に収穫物が成形室へ運ばれているときに点灯
8	カウンター	成形したロール数をカウントする
9	リセットスイッチ	カウンターの表示をリセットする
10	供給スイッチ	（上側）ロール成形を始める（下側）ロール成形を中断する
11	非常停止スイッチ	ロールベアラの動作を停止する。電源を入れ直す。
12	手動繰出スイッチ	ネットを繰出す
13	注油スイッチ	1度押すと10秒間タイトチェーンへ注油する
14	チャンバースイッチ	リアチャンバーの開閉を行う
15	全開ランプ	リアチャンバーが全開の時に点灯
16	全閉ランプ	リアチャンバーが全閉の時に点灯
17	ヒューズ	15Aヒューズを使用してください
18	電源スイッチ	電源の入切
19	パトライト（緑）	ロール成形中に回転（供給ランプと同じ）
20	パトライト（黄）	ネットを巻いている間回転、ネットが切断されると停止

トラクタへの装着

⚠ 警告

- トラクタへの本機の装着は平坦で安定した場所で行ってください。
 - 二人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。
 - ユニバーサルジョイントは、必ずトラクタのエンジンを止め、P T Oクラッチを切ってから確実に接続してください。
- 以上のことを守らないと傷害発生の恐れがあります。

1. 装着のしかた

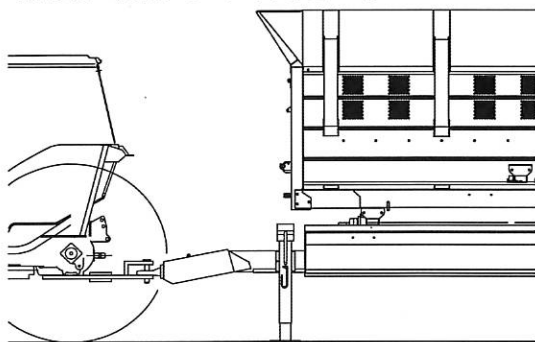
◆ ドローバへの装着

- ① トラクタのドローバを一番短い位置にしてください。
- ② スタンドのハンドルを操作して本機をほぼ水平にしてください。
- ③ トラクタを後進し、本機のヒッチ高さをトラクタのドローバ高さに合わせてください。

メモ

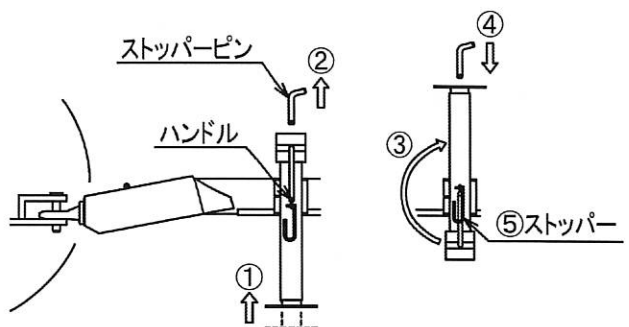
ヒッチを180度回すと20mmの微調整ができます。

- ④ トラクタを前後進し、ドローバの穴位置にヒッチ穴を合わせてヒッチピンで確実に装着してください。



◆ スタンドを上げる

スタンドを短く縮めてからスタンドのストッパーピンを抜き取り、スタンド本体を180°（度）回転し真上に上げ、ストッパーピンを入れロックしてください。スタンドのハンドルはヒッチ側に持ち上げ、ストッパーを上げて固定してください。

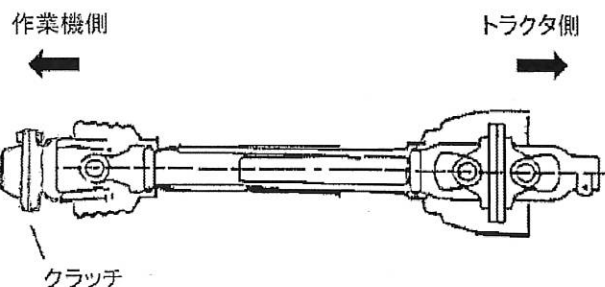


2. ユニバーサルジョイントの取付け

- ◆本機入力軸に取り付けてから、トラクタP T O軸に確実に取り付けてください。ジョイントは専用のものを使用してください。

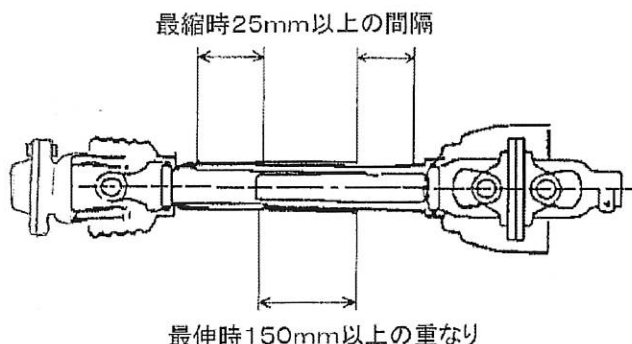
注意

下図のようにクラッチ側を作業機に取り付けてください。



トラクタへの装着

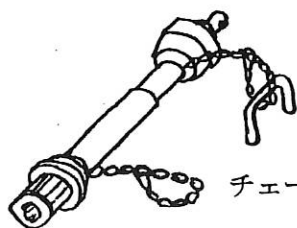
- ◆ユニバーサルジョイントの長さ確認
ジョイントの長さは本機が旋回するときに変化します。先にジョイント長さが長すぎないかを確認してください。長すぎるときは、下図の寸法が確保できるように切断してください。



注意

- 作業時のジョイント角度は作業機側で最大 25° （度）、トラクタ側ワイドアングル側で 60° （度）を越えないよう調整してください。
 25° （度）及び 60° （度）を超えるとジョイント破損の原因となります。

- ◆カバー回転止めチェーンで固定を
ユニバーサルジョイントのカバーが回転しないように、チェーンに余裕をつけて、しっかりと固定してください。



◆ 急旋回注意

P T Oを回転させながら急旋回をすると、ユニバーサルジョイントを破損する恐れがありますので、急旋回時には必ずP T Oを切ってください。

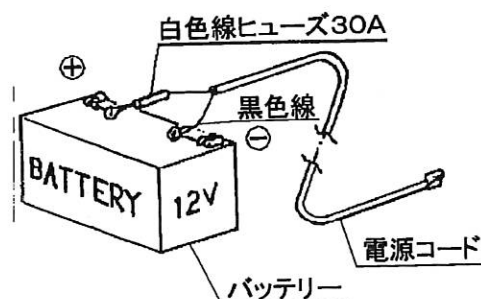
3. コントロールボックスの接続

- ◆コントロールボックスの電源は、トラクタのバッテリーより取出します。トラクタのキースイッチは通さないで下さい。

接続できるバッテリーの電圧は12Vです
24Vのバッテリーには接続しないでください。

間違って接続すると、コントロールボックス内部の機器が破損します。

- ◆ (+)、(-) の接続を間違えないように
白色線はバッテリーの (+) へ接続
黒色線はバッテリーの (-) へ接続



注意

- (+) (-) の接続を間違えると、コントロールボックスのパイロットランプは点灯しません。
- バッテリーの容量不足はコントロールボックスの誤動作の原因になります。十分に充電されたバッテリーを使用してください。

⚠ 警告

接続の順序は、(+) 側から行ってください。また、取外すときは、(-) 側から行ってください。

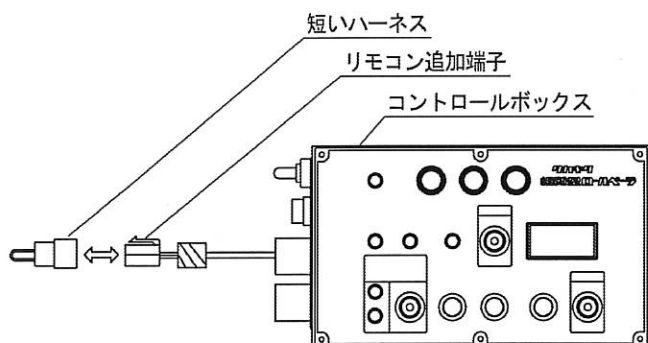
逆にすると、火花が飛び危険です。

トラクタへの装着

◆リモコンキット（オプション）

MR1000にMR-810-R（リモコンキット）をリモコン追加端子に接続することでMR1000Rとなります。リモコンがないときは必ず短いハーネスを付けてください。これを取付けないとコントロールボックスの電源が入りません。

リモコンの送信機は最大16台まで増設することができます。



◆配線の接続

電源コードと作業機側コードをそれぞれコントロールボックスに接続します。

細い電源コードを使用するとコードの発熱・コントロールボックスの誤作動を引き起こす恐れがありますので、タカキタ指定の電源コードを使用してください。

配線が作業の邪魔にならないようにトラクタに固定してください。

◆電源ランプの点灯確認

配線の接続が終了したら、スイッチを入れ電源ランプが点灯していることを確認してください。

電源ランプが点灯しないときは、電源コードのヒューズが切れていないか、バッテリーの（+）と（-）が逆になっていないか、コネクターがきちんと差し込まれているかを確認してください。

◆作業終了後は取外して屋内保管

作業終了後は、コントロールボックスから電源コード・延長コードのコネクターより切り離し、水などがかからない屋内に保管してください。

運転に必要な装置の取扱い

1. タイトチェーン注油装置の取扱い

◆作業前に必ず注油してください。

タイトチェーンに十分注油してください。

◆油の残量に注意

作業中は供給開始ごとに5秒間自動的に注油されます。

注油タンク内の油残量には、特に注意して、少なくなれば補給してください。

注意

注油タンクの油不足によりタイトチェーンに注油されない状態で作業すると、動力負荷が急増してチェーンの摩耗が多くなり寿命を低下させますので、無注油状態での使用は絶対に行わないでください。

◆作業前にはノズルの清掃を行ってください。

注油ノズル部にはゴミが付着することがあり、そのまま使用されますと、チェーンへの注油がされていないことがありますので、定期的に左右のノズル先端部に付着したゴミを清掃してください。

警告

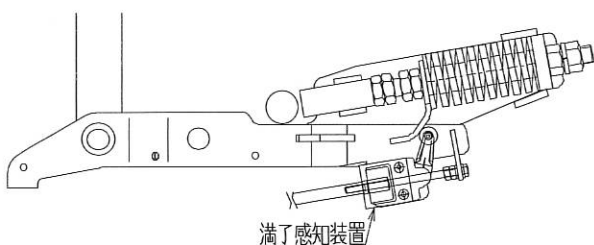
点検・清掃は必ずエンジンを止めてから行ってください。

これを怠ると重大な傷害発生の恐れがあります。

2. 満了感知装置の取扱い

◆満了感知装置の装備位置

下図に示すように進行方向左側のサイドカバーの内側に装備しています。



◆満了感知装置の作用

梱包圧力を感知する装置で、圧力感知と同時にブザーを鳴らし、前コンベア停止及びロール感知ランプが点灯し、ネットが自動的に繰り出しされます。

注意

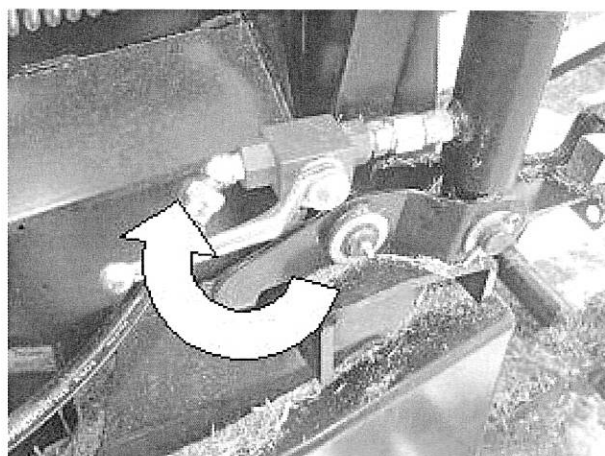
感知装置は出荷時に調整済みですので調整しないでください。

調整すると機械の破損の原因となったり、十分なロール形成ができないことになりますので、絶対に調整しないでください。

3. シリンダストップバルブの取扱い

◆油圧シリンダをロックし、下降防止をします。

点検・整備・清掃などでチャンバーを開けたままで作業するときは、必ず左右のシリンダにあるストップバルブのレバーを閉の方向に回してシリンダをロックしてください。



注意

再びチャンバーの開閉をする時は、必ずバルブを開の方向にしてください。

運転に必要な装置の取扱い

！ 警告

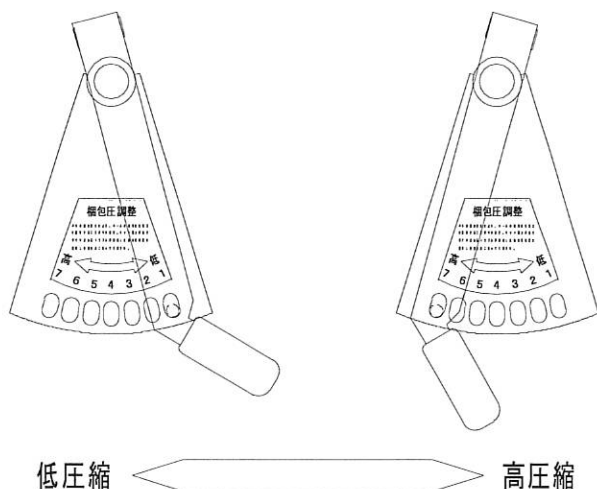
チャンバーを開けた時は必ずストップバルブを閉め、シリンダをロックしてください。

これを怠ると重大な傷害発生の恐れがあります。

4. 梱包圧の調整

ネット装置のバネ調整によりロールの梱包圧を適正に調整することができます。

ネット張力が強すぎて破れるトラブルが発生したときは“低”の位置に掛け替えて作業をおこなってください。



5. ネット装置のスライド

ネットの装着やメンテナンスの際にはネット装置をスライドすることができます。

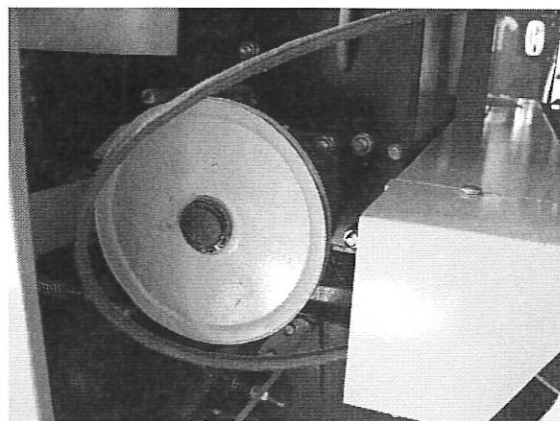
！ 注意

- ・ ネット装置をスライドする場合は、スライド部分に手などをはさまないように特に注意してください。
- ・ 切断用のナイフがありますので手を切らないように特に注意してください。
- ・ 二人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。

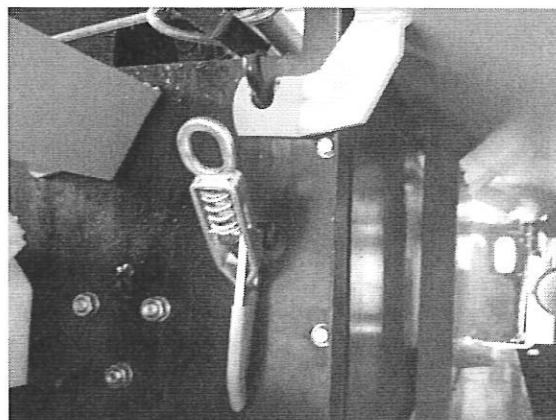
1. カバーを開く



2. 駆動ベルトを外す



3. 固定金具を外す



運転に必要な装置の取扱い

4. 取っ手を握り、ネット装置を手前に引張り出す。



警告

ネット装置をスライドするときには必ずPTOを切り、エンジンを停止させてください。
これを怠ると重大な傷害事故を引き起こす恐れがあります。

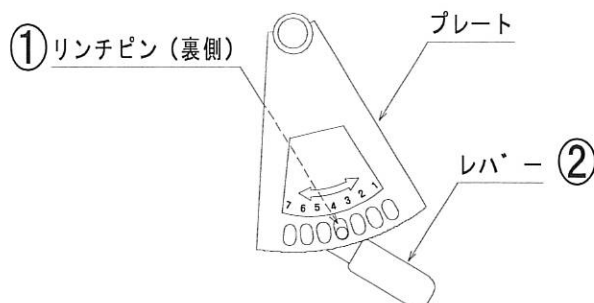
6. ネットをセットする

注意

- ・ ネットを通す場合は、切断用のナイフがローラーの後にありますので手を切らないように特に注意してください。
- ・ ネットの種類によりトラブルが出ることがありますので必ずタカキタ指定のネットを使用してください。

使用できるネットは1.0又は1.2m幅ネットです。

1. 梱包圧調整部の①リンチピンを外し、②レバーをプレートから外す。



2. フックを③方向に持ち上げ、アームを④方向に引き出し、ドラムを⑤方向に抜き出す。

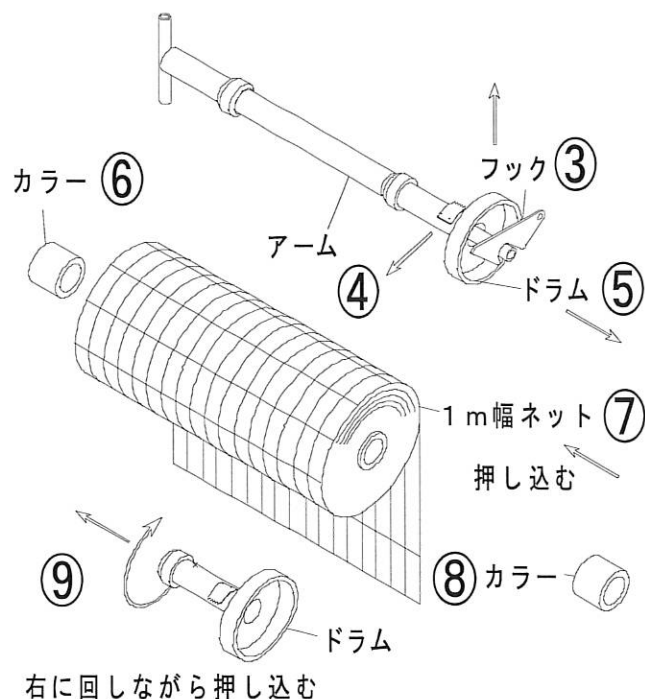


図 1 (1mネットセット図)

3. アームにカラー⑥を入れる。
(1. 2m幅ネット装着時は不要)
4. ドラムにネット⑦を図1の巻き方向で差し込む。
5. アームにカラー⑧を入れる。
(1. 2m幅ネット装着時は不要)
6. アームにドラムを右に回しながら⑨押し込む。

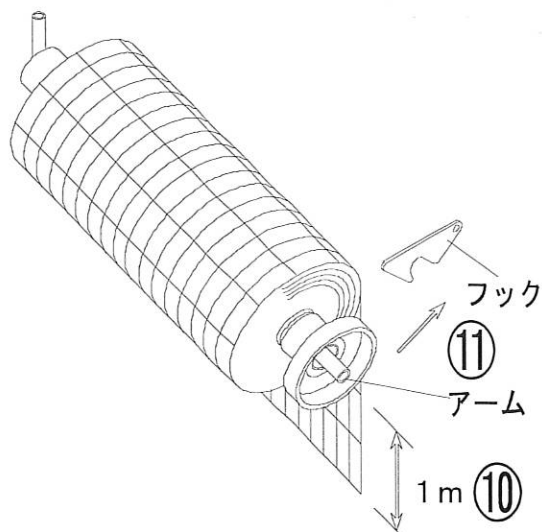


図 2 (1mネットセット図)

運転に必要な装置の取扱い

7. ネットを図2のように1 m程度引き出す⑩。
8. アームを戻し⑪、フックで固定する。
9. ネットを束にして図3のように通す。

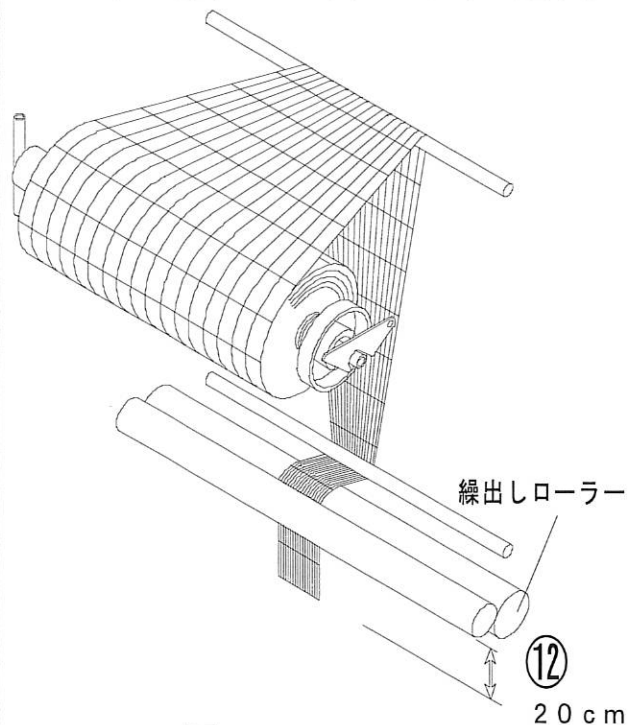
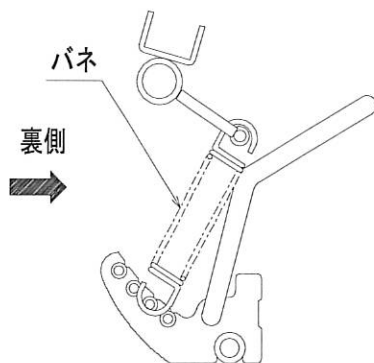


図3 (1mネットセット図)

10. 繰出ローラーを回してネットをきちり張ると下より20 cm程度ネットが出る状態⑫になります。



11. 梱包圧調整部のレバーをプレートの元の位置に戻す。ブレーキ解除時、プレート裏側のバネが外れる場合があるので、ブレーキ復帰時、必ずバネの確認をしてください。なお、外れた状態で使用すると、ネットブレーキがかかりません。

7. 使用時にこれだけは守りましょう

ナイフの刃こぼれがある場合は、交換してください。

ネットは紙筒を使用している為、水濡れ厳禁です。また、屋外保管の場所は、ネットを取り外し屋内で保管してください。

8. 使用できるネット

- ・タカキタ指定のネットを使用してください。ネットの種類によりトラブルがでることがあります。必ず指定ネットを使用してください。

ネット（別売品）は当社で準備しております。

・ネットの幅寸法

ネットの幅寸法を確認してください。下記のネットしか使用できません。

1. 0m幅ネット(タカキタ指定のみ)

1. 2m幅ネット(タカキタ指定のみ)

タカキタ指定ネットは、ネットの芯がネットブレーキ装置に適した硬い紙筒を使用しています。

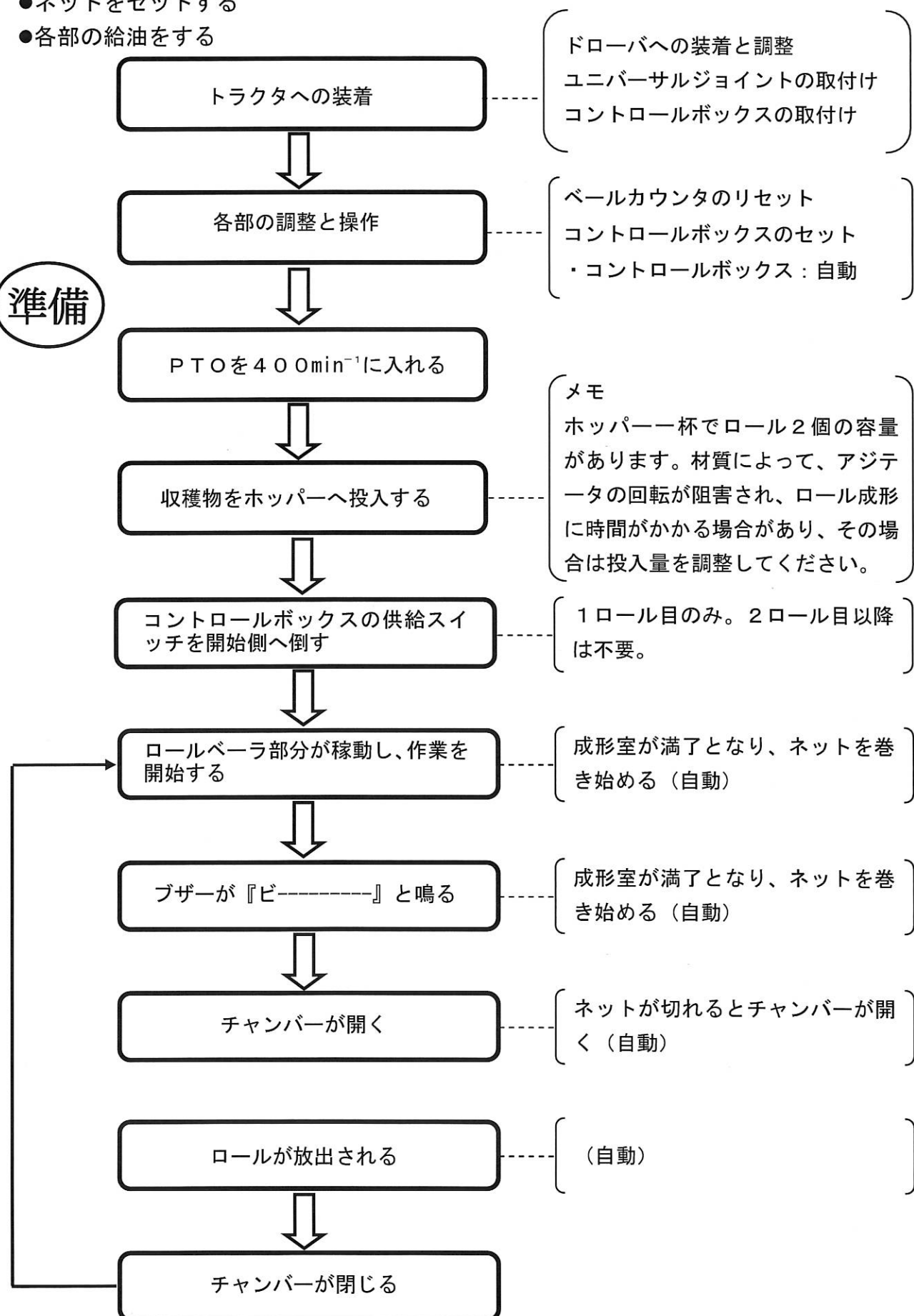
作業方法

1. 作業手順と要点

作業前に

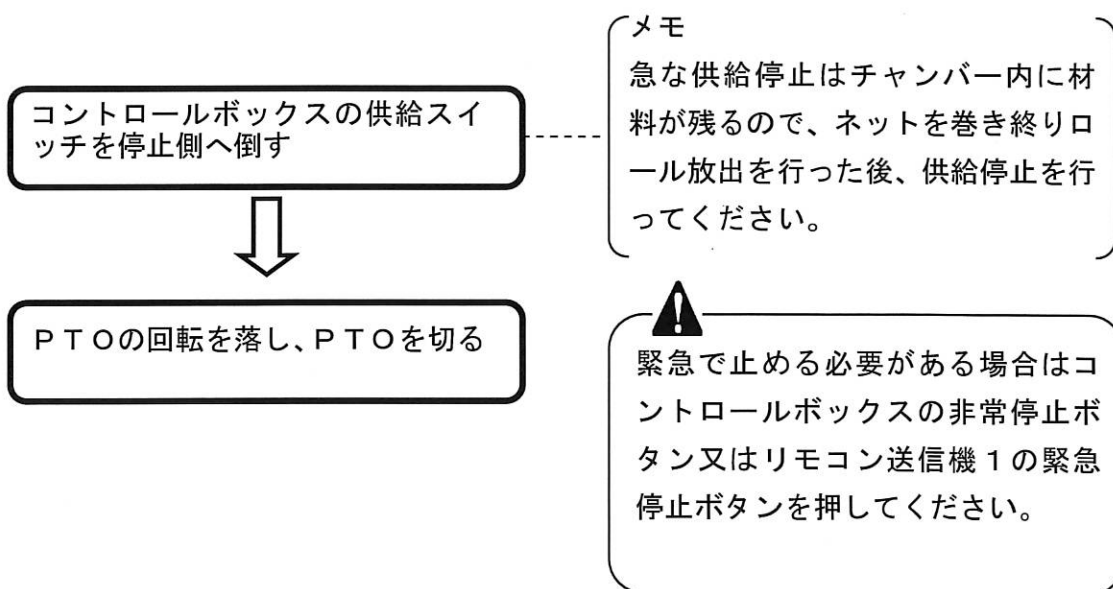
- ネットをセットする
- 各部の給油をする

準備



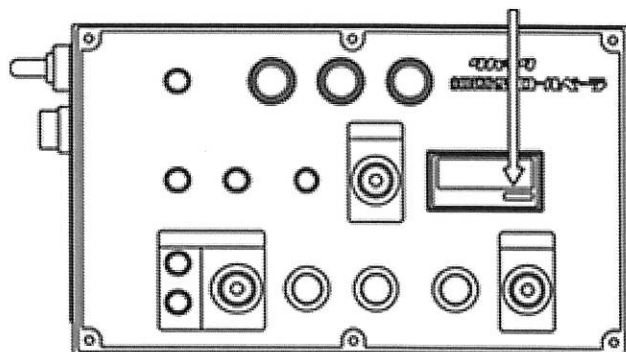
作業方法

作業を中断する場合は、以下の手順に従ってください。



2. ベールカウンタのリセット

作業前に記憶している残カウントをリセットして「0」にします。



作業前・作業後の点検について

作業の安全確保と、故障を未然に防ぐには、機械の状態をよく知っておくことが大切です。
作業前の点検は、欠かさず行ってください。



警告

- 取外したカバー類は必ず取付けてください。衣服が巻き込まれたりして危険です。
- 点検・整備をするときはP T Oを切り、エンジンを停止させて回転が止まってから行ってください。

No.	作業前の点検項目	内 容	参照 ページ	チェック	チェック
1	油圧作動油	油圧オイル交換・補充	2 8		
2	ミッションオイルの交換	1 0 0時間毎にオイル交換	3 1		
3	油圧ホース等のオイル漏れ	漏部の増締めし再チェック	—		
4	伝動チェーンのゆるみ	たわみ量調整	—		
5	タイトチェーンの張り調整	伸びている場合は張る	2 7		
6	タイヤホイールのハブナットのゆるみ	ゆるんでいるときは締める	—		
7	タイヤの空気圧、傷の確認	空気圧不足のときは空気補充	2 7		
8	電装ハーネス	断線およびカプラのチェック	—		
9	電装系の確認	動作を確認	2 9		
1 0	チェーンの注油	チェーンにオイル注油	2 9		
1 1	タイトバーのゆるみ	ゆるんでいるときは締める	—		
1 2	グリスアップ・グリス塗布・注油	図表に従って行ってください	3 3		
1 3	予備シェアボルト	不足のとき補充	2 8		
1 4	各部のボルト・ナット	ゆるんでいるときは締める	—		
1 5	タイトバーボルト・ナット	ゆるんでいるときは締める	3 3		
No.	作業後の点検項目	内 容	参照 ページ	チェック	チェック
1	清掃	機材の掃除	3 0		
2	ネット切断ナイフ	破損しているときは新品と交換	—		

点 検 メ モ

簡単な手入れと処置

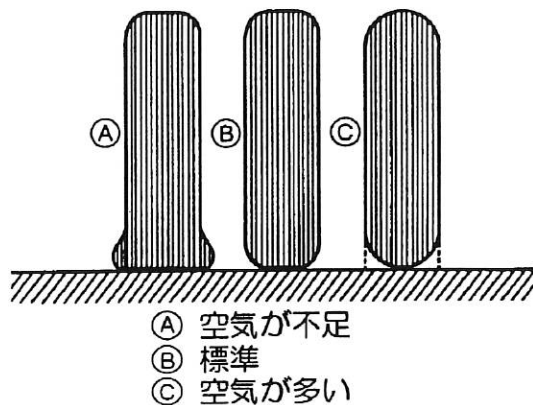
1. タイヤの空気圧の調節及び摩耗、損傷

- ◆作業前にはタイヤの空気圧を確認してください

警告

- タイヤの空気圧は取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。
空気の入れ過ぎは、タイヤ破損の恐れがあり死傷事故を引き起こす原因になります。
- タイヤに傷があり、その傷がコード（糸）に達している場合は、使用しないでください。
タイヤ破損の恐れがあります。
- タイヤ・チューブ・ホイールなどに関する交換・修理などは、十分な整備施設をもち、特別教育を受けた人がいるタイヤショップ等の専門店で依頼してください。

外観からタイヤの空気圧を判断する目安は次のとおりです。

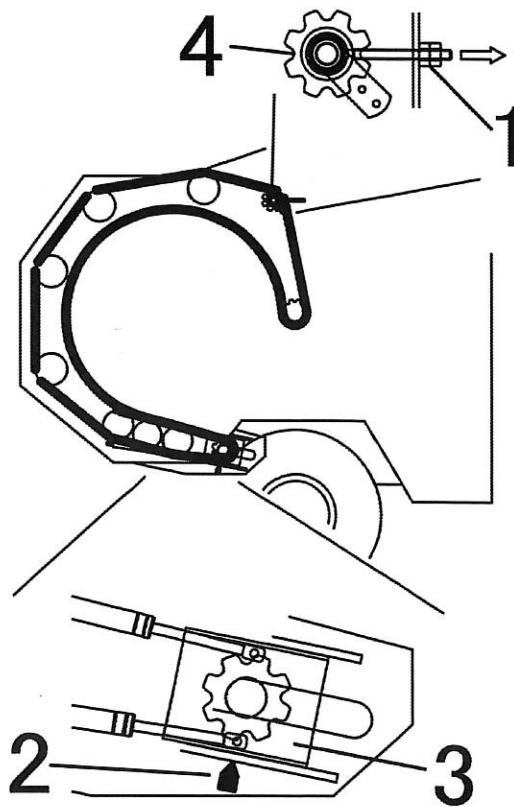


- ◆タイヤのサイズと規定空気圧
タイヤサイズ（チューブレスタイヤ）
11.5/80-15 8プライ
空気圧
常圧タイヤ内圧 3.0 kgf/cm² 以下

2. タイトチェーンの張り調整

下図のように、“タイトチェーンの標準張り位置のマーク”が付いていますので、タイトチェーンが伸び標準位置より前に来た場合、次の要領で調整してください。

- ① 1 ロックナットを緩めてください。
- ② 2 タイトチェーンの標準張り位置のマーク”と3 シメツケプレート（調整板）の中心が合う位置まで、1 ロックナットを締め込み4 テンションスクリュー（調整ネジ）でタイトチェーンを張ってください。
- ③ 調整後にロックナットを締め、空回しして、マークの位置を確認してください。



注意

チェーン張り調整は、チャンバーを閉じた状態で行ってください。調整は必ず左右共に行い、左右の引張り量を合せてください。

簡単な手入れと処置

3. ヒューズの交換

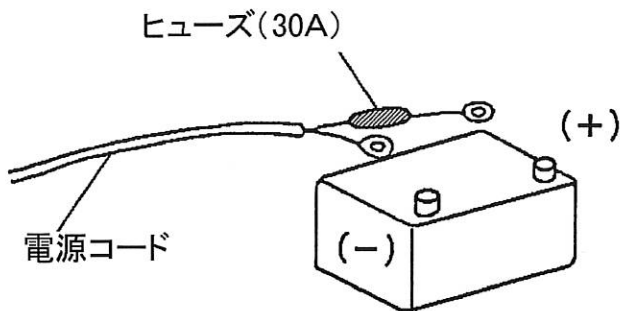
電源が入らない場合は、ヒューズが切れている可能性があります。点検し、切れていれば交換してください。

●コントロールボックスのヒューズ

コントロールボックス 15 A 1ケ

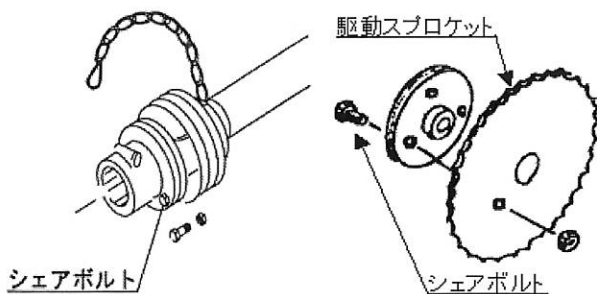
●電源コードのヒューズ

30 A 1ケ



4. シェアボルトの交換

ロールベアラ部に過負荷がかかったときにユニバーサルジョイント部、または駆動スプロケット部のボルトが切断され、本体の損傷を防止します。



◆シェアボルトのサイズは下記の通りです。

ジョイント部（通常作業用）

ボルト M6×40（8T）
ナット M6ナイロンナット } セット

シェアボルトを交換しても作業が復旧できない際は復帰用のボルトを使用し、復帰してください。

ジョイント部（作業復帰用）

ボルト M6×40（11T）
ナット M6ナイロンナット } セット

注意

シェアボルトは通常作業用のボルト以外では絶対に作業しないでください。

駆動スプロケット部（通常作業用）

ボルト M8×40（8T）
ナット M8ナイロンナット } セット

◆シェアボルトが切断されたら

過負荷になっている原因を取り除いてください。

主な原因は以下になりますので、確認してください。

1. 駆動チェーン、タイトチェーンに確実に注油がされているか確認してください。
2. 感知センサーが定位置で確実に反応しているか確認してください。

◆ボルトが切断されたら交換してください

切断されたボルトを除去して、ボルト穴を合わせてからシェアボルトとユルミドメナットを確実に締付けてください。

！ 注意

シェアボルトの交換を終え、再度作業を再開する時は、試運転のときと同様にゆっくりとPTOを入れてください。

5. 油圧作動油

エンジン作動前に必ず油圧作動油の量を確認してください。不足している場合は、適時補給してください。

簡単な手入れと処置

油は J I S K 2213 添加タービン 1 号または 2 号相当品をご使用ください。タンク容量は 30ℓ です。

なお、交換時期は 100 時間毎です。

ISO VG	ジャパン エナジー	出光興産	日本石油
68	ハイドラックス 68	ダブリュウハイドロリックフルイド 68	スーパーハイランド 68
コスモ 石油	三菱石油	昭和シェル 石油	
スワフルード 68	ダイヤモンド パワーフルード 68	シェルテラスオイル 68	

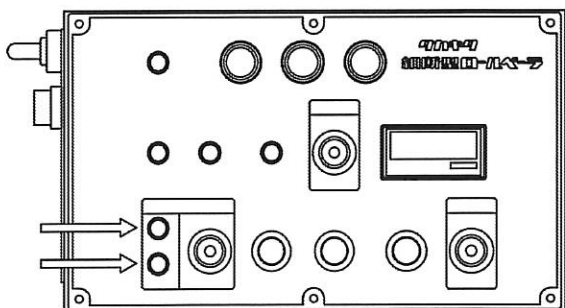
注 意

- 不燃性作動油は使用できません。
- 寒冷地では耐寒性作動油をご使用ください。
- 工場出荷時はシェルテラスオイル 68 を使用しています。

6. 電装系の確認

作業前には必ず以下の手順に従って電装系の確認を行ってください。

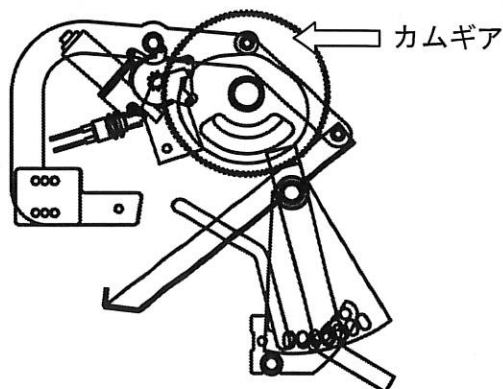
- ① コントロールボックスの電源を入れて以下を確認してください。
 - ・ 電源ランプが点灯している。
 - ・ チャンバー開ランプが消灯している。
 - ・ チャンバー閉ランプが点灯している。



- ② コントロールボックスの「供給開始」ボタンを押して以下を確認してください。
 - ・ 緑色のパトライトが点灯する。

- ② 感知センサーのアームを軽く引張り、以下を確認してください。

- ・ 感知ブザーが鳴る。
- ・ カムギアが一周して止まる。
- ・ ブザー（断続音）が鳴り、エラーになる。



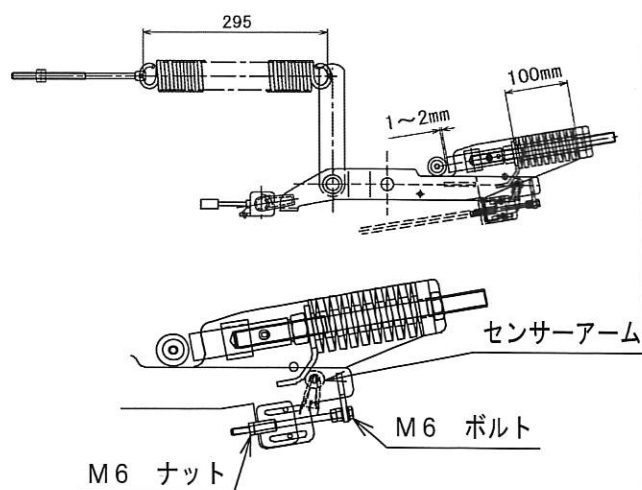
- ④ 電源を入れ直してください。

- ⑤ 確認作業が終われば、コントロールボックスの電源を切ってください。

7. 感知センサの確認

◆ 満了感知装置の装備位置

下図に示すように進行方向左側のサイドカバーの内側に装備しています。



M6 ナットを緩め、M6 ボルトを緩み方向に回し感知した位置から 2 回転戻し、再度 M6 ナットでロックしてください。

簡単な手入れと処置

(調整後、センサーアームを手で動かし2～3mm動かし感知することを確認してください。)

注意

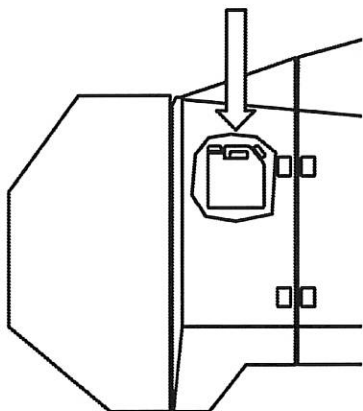
感知装置は出荷時に調整済みですので、再調整する場合は販売店まで連絡してください。

8. チェーンの注油

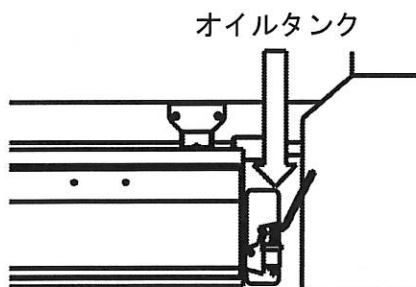
作業前には必ず以下の手順に従って各部チェーンに注油してください。

①それぞれのオイルタンクにオイルを入れてください。なお、オイルはエンジンオイルSAE 5W-30又は10W-30を使用してください。

- ・ タイトチェーン用オイルタンク (4ℓ) にオイルを補給してください。



- ・ ポンプ駆動チェーン用オイルタンク (1.5ℓ) にオイルを補給してください。

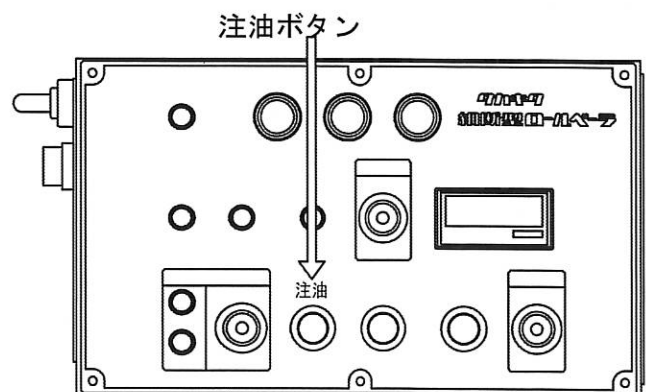


注意

- ・ 無給油で運転するとオイルポンプ及びモータの故障になるので絶対に行わないでください。
- ・ タイトチェーンの注油ポンプは自給式を採用していますので、タンク内が空になった際もオイルを補給すればエア抜きなしでオイル供給ができます。また、コントロールボックスに注油スイッチを設けていますのでスイッチを長押しをしてオイルの吸い込みを確認してください。
- ・ 粘度の高いオイルはモータの故障の原因になるので使用しないでください。
- ・ 給油前に給油ノズル先端のゴミを取除いてください。

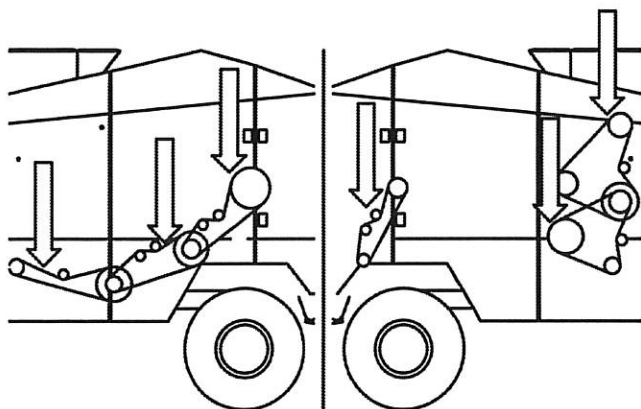
- トラクタのPTOを低速で回転させてください。

- 注油ボタンは一度押すと10秒間(注油している間、搬送ランプが点滅)タイトチェーンに注油を行います。タイトチェーンは一周するのに20秒程かかるので、注油ボタンを1回押し搬送ランプの点滅が消えた後、もう1度供給ボタンを押して、タイトチェーンに注油してください。



簡単な手入れと処置

- ポンプ駆動チェーン用オイルタンク付近にある手動ポンプを5回程下方向に押し、ポンプ駆動チェーンに注油してください。
- 各部の駆動チェーンに注油してください。



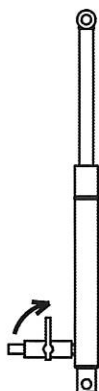
- ⑥トラクタのPTOを切ってください。

9. 清掃

作業後には必ず以下の手順に従って清掃を行ってください。

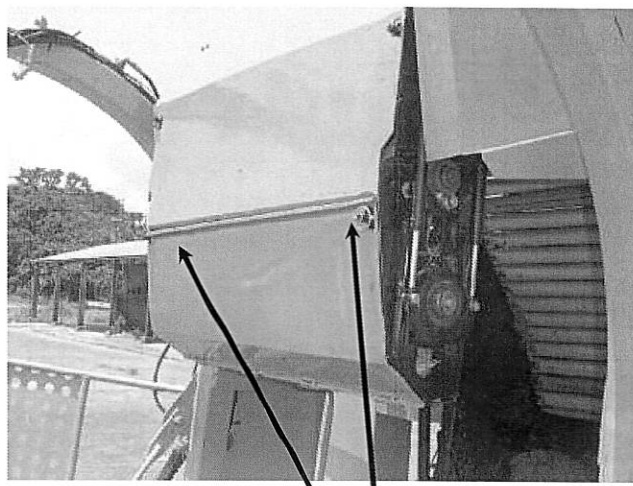
- ①トラクターをアイドリング状態にし、PTOを入れてください。
- ②コントロールボックスの「チャンバー開スイッチ」でチャンバーを開けてください。

- ③必ず左右のシリンダをロックし、チャンバーが下がらないことを確認してください。

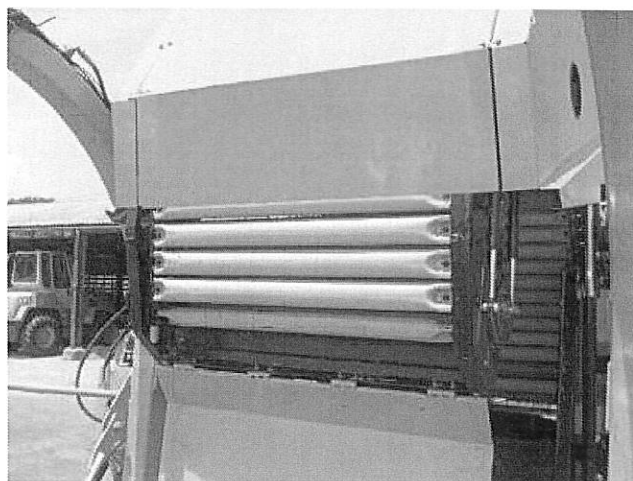


- ④PTOを切ってください。

- ⑤下図のリンチピンをとりカバー中の堆積物を取り出し、掃除をしてください。



リンチピンを外す



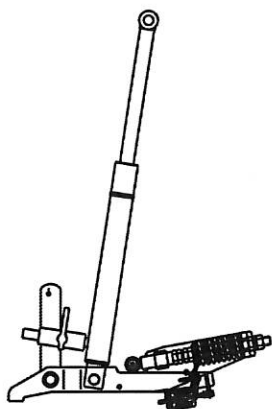
カバーを開く

注意

掃除をしないままにしておきますと堆積した収穫物が腐敗し雑菌がロールに混入、サイレージ品質を劣化させる恐れがありますので掃除を必ず実施してください。

- ⑥ロックカナグのセンサ付近を掃除をしてください。材料等が固着すると、感知が不安定になることがあります。

簡単な手入れと処置



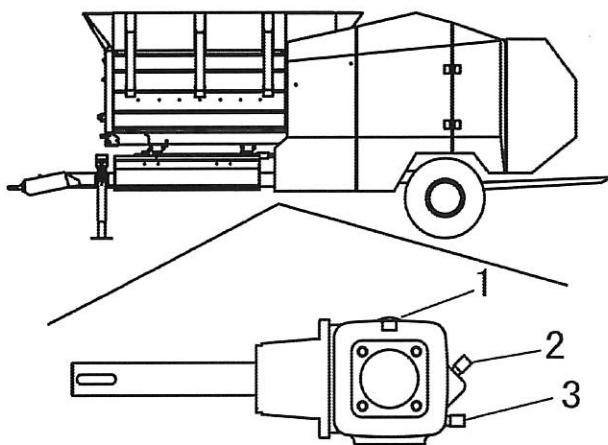
- ⑦コントロールボックスの「チャンバー閉スイッチ」でチャンバーを閉じてください。

10. ミッションオイルの交換

使用100時間ごとに全量を交換してください。使用するオイルはギヤオイル#90を0.5ℓです。

必ず以下の手順に従ってオイル交換を行ってください。

- ① 下図3のドレンプラグを外し、使用済みオイルを抜いてください。オイル抜いた後、新しいシールテープを巻いたドレンプラグを取付けてください。
- ② 下図1のオイルキャップ、2のドレンプラグを外し、2の穴からオイルが出るところまで新しいオイルを入れてください。オイルキャップと新しいシールテープを巻いたドレンプラグをそれぞれ取り付けてください。



11. 車輪止め

駐車時は、必ず車輪止めでタイヤの歯止めをしてください。また、使用後はフレー

ム部へ格納してください。



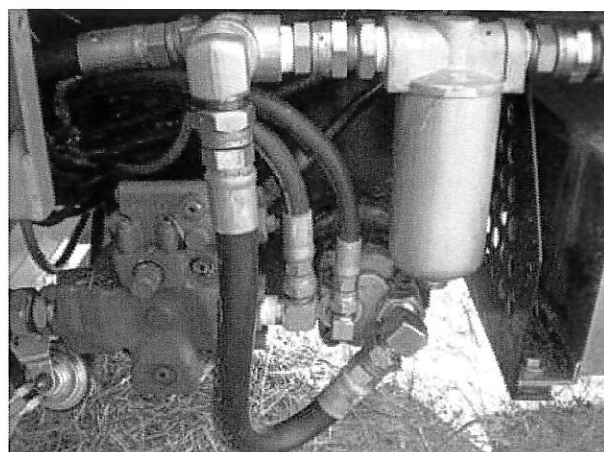
！ 警告

本機をトラクタから切り離したときも、必ず車輪止めで歯止めをしてください。本機が動き、思わぬ事故の原因になります。

これを怠ると重大な傷害事故を引き起こす恐れがあります。

12. オイルフィルタの掃除

100時間毎にオイルフィルタのエレメント(P-LND-08-150K)を交換してください。



13. 長期格納時の手入れ

- 付着した泥やほこり等を落とし、巻き付いた草等を取除いてください。
- 各回転・摺動部やチェーン類には十分注油し、さびないようにしてください。

簡単な手入れと処置

- 塗装のはがれた部分には、補修塗料を塗って、さびが出ないようにしてください。
- 各部のボルト・ナットがゆるんでいないかを確認し、ゆるんでいるときは締めてください。
格納は、雨やほこりのかからない屋内に保管してください。
- 格納は平坦な所で保管してください。

14. タイトバーボルト・ナットの点検

定期的にタイトバーボルト・ナットの緩み点検を行って下さい。

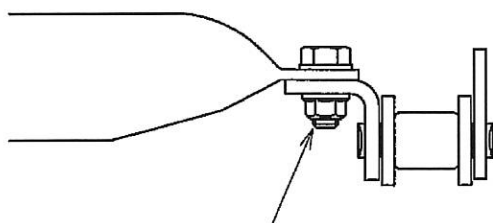
・点検の目安（ロール個数）

初回 約 1000 個での実施

以降 約 2000 個での実施

緩みがある場合は増し締めを行なってください。

緩みが酷い場合（増し締め時に1回転以上回る場合）はボルト・ナットを新品に交換して下さい。



締付けトルク 90 N/m



警告

タイトバーボルト・ナットが緩んだ状態で作業を続けるとタイトバー・タイトチェーンの破損に繋がる恐れがあります。

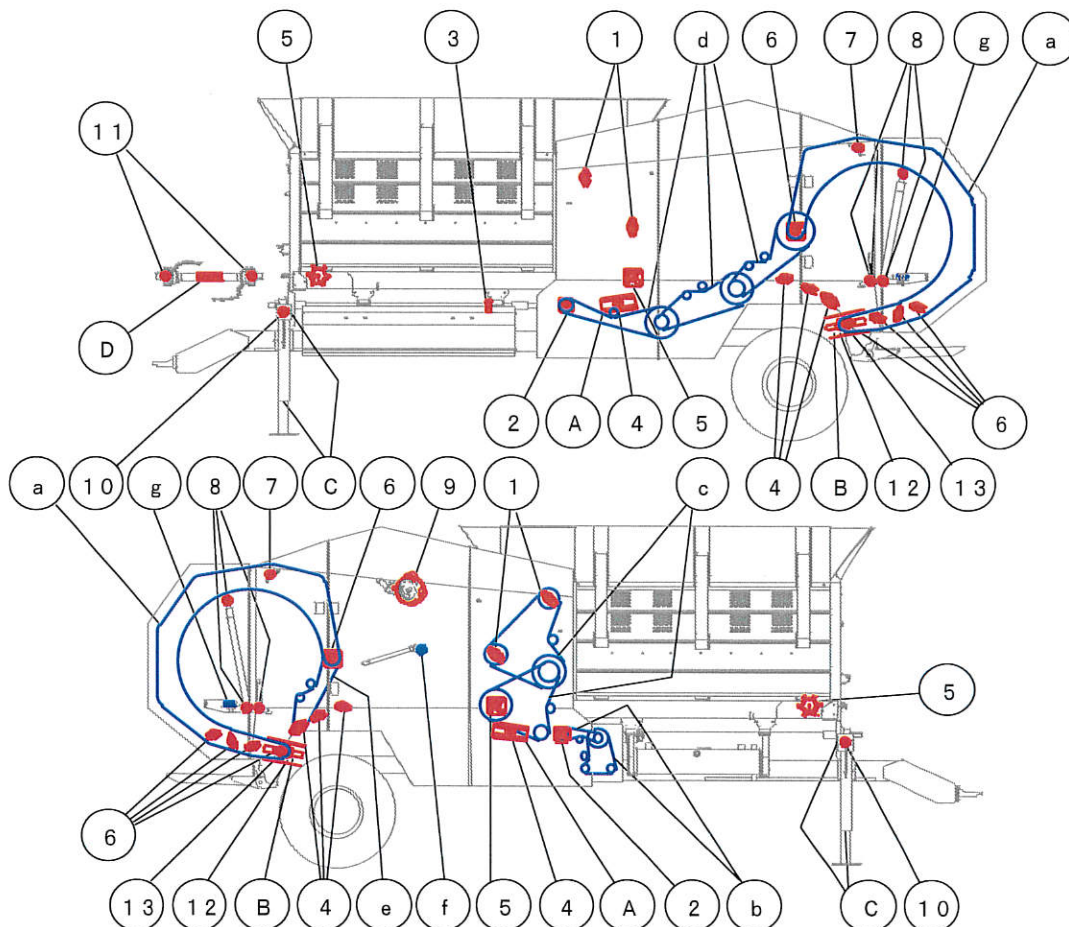
15. グリスアップ・グリス塗布・注油

図表に従って各部にグリスアップ・グリス塗布・注油を行ってください。

！ 警 告

点検・調整をするときは必ずPTOを切り、エンジンを停止させてください。
これを怠ると重大な傷害事故を引き起こす恐れがあります。

対処方法	No.	名 称	箇 所	時 期
グリス アップ	1	アジテータ軸受け	左右 各2	20時間毎
	2	ミッション横軸受け	左右 各1	20時間毎
	3	ミッション縦軸受け	1	20時間毎
	4	ベルトコンベア軸受け	左右 各4	20時間毎
	5	コンベア軸受け	左右 各2	20時間毎
	6	タイトチェン軸受け	左右 各4	20時間毎
	7	チャンバー開閉支点	左右 各1	20時間毎
	8	シリンダー支点	左右 各3	20時間毎
	9	カムギア	1	20時間毎
	10	ロールベアスタンド	左右 各1	20時間毎
	11	ジョイント可動支点	前後 各1	20時間毎
	12	タイトチェンスラスト部	左右 各2	20時間毎
	13	タイトチェンテンション軸	左右 各1	20時間毎
グリス 塗布	A	ベルトコンベアスラスト部	左右 各1	20時間毎
	B	タイトチェンスラスト部	左右 各1	20時間毎
	C	ロールベアスタンドスラスト部	左右 各2	20時間毎
	D	ジョイントスラスト部	1	20時間毎
注 油	a	タイトチェン	左右 各1	作業前
	b	ポンプ駆動2列チェン	2	作業前
	c	アジテータ駆動チェン	2	作業前
	d	駆動チェン	3	作業前
	e	ベルトコンベア駆動チェン	1	作業前
	f	ネジタイマー軸	1	20時間毎
	g	スライダカナグのスラスト部	左右 各1	20時間毎



不 調 診 断

不 調 内 容	診 断	処 置	参 照 ページ
●電源ランプが点灯しない	●ヒューズが切れている	●ヒューズの交換	28
●タイトチェーンが異常に振動する	●タイトチェーンの油切れ	●注油する	29
●シェアボルトが頻発して切れる		●注油タンクの油量を確認する	29
●ホンプ駆動チェーンがバタ付く	●チェーンの油切れ ●テンションバネの伸び	●手動ポンプで注油する ●テンションバネを交換する	29
●リアチャンバーが開かない	●ネットが巻き終わっていない	●ネットを手動で再度巻く	16
	●油圧ポンプが回っていない	●トラクタPTOを回す	—
●アジテータの逆転が頻発する	●材料の入れすぎです	●入れる量を減らす。 ●アジテータ上から投入せず、ホッパー前に材料を入れる	—
●リアチャンバーが閉まらない	●前後チャンバーの合わせ部に材料がたまっている	●掃除をする	—
●ネットが繰り出さない	●ハーネスの接続不良	●接続する	—
	●駆動ベルトが外れている	●取り付ける	21
	●電源容量不足	●バッテリーから付属のハーネスで直接取り出す	18
●ネットの切れが悪い	●ナイフの出方が少ない	●ナイフの出量の調節	—
	●ナイフが切れなくなっている	●ナイフの交換	—
●ネットがゴムローラに巻きつく	●結露・水滴によるゴムローラへの付着	●水分をふきとる	—
●ロールの形状がテーパー状になる	●ホッパーへの投入が左右均等でない	●左右均等に投入する	—
		●ホッパーに十分な量を投入してから（ためてから）作業を行う	—
●パトライトが点灯しない	●電球が切れています	●電球を交換する	—
●ロールが軟らかい	●ネットの結束力不足	●ネットの再調整	22

不調診断

○ : 点灯 ● : 消灯 ☆ : 点滅 — : 特定しない

1. 準備完了表示

内容									パトライト	対応
	青	黄	赤	ネット異常	ネット残量	全開	全閉	緑	黄	
通常作業開始時の表示	●	●	●	●	—	●	○	●	●	表示の状態になっていない場合は、手動レバー操作でチャンバーを閉めてください。

2. 通常動作表示

内容									パトライト	説明と解除
	青	黄	赤	ネット異常	ネット残量	全開	全閉	緑	黄	
非常停止中	☆	☆	☆	●	●	—	—	—	—	説明：緊急停止する必要がある場合は、コントロールボックスの「非常停止」ボタンを押してください。 解除：電源を入れ直すと、非常停止を解除することができます。 リモコン仕様の場合、「緊急停止解除」スイッチを押すと、非常停止を解除することができます。
供給中	○	●	●	●	—	●	○	○	●	説明：ホッパーの材料をロール成形室に送り込んでいます。 解除：コントロールボックスの「供給停止」スイッチを押すと供給を停止することができます。
ネット巻付け中	●	○	●	●	—	●	○	●	○	説明：材料が成形室一杯になったのを感知したので、ネットを送り込み結束します。 ※ 成形室が一杯になっていないと結束できませんので、注意してください。
ネット巻付け完了	●	○	○	●	—	●	○	●	○	説明：ネットの結束が完了しました。この後、チャンバーが開きますので、注意してください。 ※コントロールボックスが「自動」になっている場合、急にチャンバーが開きますので、注意してください。

3. 消耗品（ネット）切れ表示

内容									パトライト	交換方法
	青	黄	赤	ネット異常	ネット残量	全開	全閉	緑	黄	
ネットが無くなる、切れる、巻付く等で、動作が止まった	●	○	●	☆	—	●	○	●	○	①PT0を切ってください。 ②ネット交換方法のステッカーに従い、ネットを交換してください。 ③機械の周りに人がいないか確認し、PT0を入れてください。 ④コントロールボックスの「手動繰出し」ボタンを押してください。

4. 動作不良表示

内容									パトライト	原因と対応
	青	黄	赤	ネット異常	ネット残量	全開	全閉	緑	黄	
コントロールボックス操作が利かない	●	●	●	●	●	●	●	●	●	原因：リモコン仕様の場合、コントロールボックスの「非常停止」スイッチを押すと、コントロールボックスの電源が切れます。 対応：機械の周りに人がいないことを確認し、緊急停止解除スイッチを押して非常停止を解除してください。
アジテータの逆転が頻発する	○	—	—	●	—	●	○	○	●	原因：アジテータ回転速度が遅いことが考えられます。 対応：PT0と回転するが400rpmになっているか確認してください。
ホッパー内の材料がロール成形室に送り込めない	☆	●	☆	●	—	●	○	●	●	原因：カムスイッチが押されていません。 対応：カムスイッチを固定されているナットが緩んでいないか確認してください。
	●	☆	●	●	—	●	○	●	●	原因：感知スイッチが引張られ続けています。 対応：感知スイッチに材料が引っ掛っていないか確認してください。
	●	●	●	—	—	●	●	●	●	原因：材料が詰まって閉センサが押されていません。 対応：①チャンバーの合わせ目に材料が挟まっていないか確認してください。 ②挟まっている場合はチャンバーを開け、掃除してください。 ※チャンバー内に入る際は必ずシリンダーをロックしてください。
	○	—	—	●	—	●	○	○	●	原因：ネットホサキセンサに材料が引っ掛っていることが考えられます。 対応：ネットホサキセンサの掃除をしてください。
	●	●	●	●	—	—	●	●	●	原因：初期状態になっていません。 対応：①チャンバー内に人がいないことを確認し、シリンダーロックを解除してください。 ②手動レバー又はコントロールボックスの「チャンバー閉」スイッチを押してチャンバーを閉めてください。
(手動レバーで)チャンバーが開かない	—	—	—	—	—	—	○	—	—	原因：電源が入っている時は手動レバーでチャンバーを開けることができません。 対応：電源を切るまたはコントロールボックスの「チャンバー開閉」スイッチで操作してください。 ※チャンバー内に入る際は必ずシリンダーをロックしてください。
ロール放出時、チャンバーが閉じない	●	●	●	●	—	☆	☆	●	●	原因：チャンバー閉、開センサの異常です。 対応：チャンバー開、閉センサが同時に押されています。コネクタ、センサ部にゴミが詰まっていないか確認してください。
	☆	☆	—	—	—	—	—	—	—	原因：キッカースイッチ異常です。 対応：キッカースイッチがON状態になったままです。コネクタ、センサ部にゴミが詰まっていないか確認してください。

付 表

1. 主要諸元

型 式	MR1000	
名 称	細断型ロールベアラ	
装 着 方 法	ドロバけん引方式	
駆 動 方 法	PTO駆動（回転速度 400min ⁻¹ (rpm)）	
適 応 ト ラ ク タ	25.7～73.6kW（35～100PS）以上	
機 体 寸 法	全 長	6,000mm（作業時） 6,000mm（移動時）
	全 幅	1,910mm
	全 高	2,340mm（作業時） 2,340mm（移動時）
質 量	2,700kg	
ロ ー ル 寸 法	φ100cm×85cm（参考値）	
ロ ー ル 重 量	415～500kg（参考値）	
結 束 装 置	ネット	
ネ ッ ト サ イ ズ	幅100又は120cm×2000m	
ホ ッ パ ー	容 量	3.0m ³
	地上高	2,340mm（あおり有） 1,980mm（あおり無）
	投入幅	2,900mm（あおり有） 1,750mm（あおり無）
タ イ ヤ サ イ ズ	11.5/80-15 8プライ	

この主要諸元は、改良などにより、予告なく変更することがあります。

2. 主な消耗品

No	交換部品	部品コード	員数	時期	取扱説明書、パーツリストのページ
▼ベアラー関係					
1	タイトチェーン	3 9 1 0 1-3 2 8 0-0 0 0	2	500時間毎交換	
2	ピアノセン	2 8 1 1 3-3 2 5 5-0 0 0	2	"	
3	タイトバー	3 9 1 0 1-3 3 4 1-0 0 0	80	"	
4	タイトバー (キーツキ)	3 9 1 0 1-3 3 5 0-0 0 0	8	"	
5	チェンガイド用のステー 3	3 1 1 0 8-1 4 3 0-0 0 1	3	"	
6	駆動軸のベアリング	0 4 5 1 3-0 0 0 2-0 8 0	2	1000時間毎交換	
7	折返しのベアリング	0 4 5 2 1-0 0 0 2-0 7 0	2	"	
8	成形室のベアリング	0 4 1 1 0-4 0 6 2-0 5 0	6	"	
9	駆動スプロケット	3 6 1 2 0-3 2 2 0-0 0 0	2	"	
10	テンションのガススプリング	3 1 1 0 8-3 4 3 0-0 0 0	4	200時間毎交換	
11	スライダカナグ	3 9 1 0 1-7 2 1 1-0 0 0	2	200時間毎交換	
12	チャンバーロックのスプリング	0 0 6 1 5-0 6 0 0-4 0 0	2	500時間毎交換	
▼ネット装置					
13	ブレーキシュー	3 3 1 0 1-6 9 9 3-0 0 0	1	500時間毎交換	
14	タイマーナイフ	3 2 1 1 8-7 6 5 0-0 0 1	1	200時間毎交換	
15	ネジタイマー	3 6 1 2 0-6 9 1 1-0 1 1	1	"	
16	ナイフ	6 0 1 2 1-5 1 3 2-0 0 0	2	1000時間毎交換	
17	ゴムローラー	6 0 1 2 1-4 5 1 0-0 0 0	1	500時間毎交換	
18	ベルト	0 3 6 1 0-0 0 1 0-7 1 0	1	"	
19	ワンウェイプレート	3 2 1 1 8-6 8 4 2-0 0 2	4	"	
▼コンベアベルト					
20	コンベアベルト	3 6 1 2 0-6 4 2 0-0 0 1	1	"	
21	スクレーパゴム	3 6 1 2 0-6 5 2 1-0 0 1	1	"	
22					
▼駆動系					
23	アジテータ駆動チェン	0 3 6 2 1-0 5 0 1-3 4 1	1	500時間毎交換	
24	コンベア駆動チェン	0 3 6 2 1-0 5 0 1-4 0 1	1	"	
25	ベアラ左1駆動チェン	0 3 6 2 1-0 6 0 1-0 4 1	1	"	
26	ベアラ左2駆動チェン	0 3 6 2 1-0 6 0 0-8 4 1	1	"	
28	ベアラ左3駆動チェン	0 3 6 2 1-0 8 0 0-7 6 6	1	"	
29	ベアラ右駆動チェン	0 3 6 2 1-0 6 0 0-8 0 1	1	"	
30	ホンプ駆動第一チェン	0 3 6 3 1-0 4 0 0-6 6 1	1	"	
31	ホンプ駆動第二チェン	0 3 6 3 1-0 4 0 0-6 8 1	1	"	
32	ホンプ駆動チェンテンション用スプリング	0 0 6 1 5-0 2 3 0-5 0 0	2	100時間毎点検し、破損している場合は交換	
33	インサート	3 6 1 2 0-3 8 3 2-0 0 0	1	"	
34	シェアボルト (M6X35 11T) ナイロンナット (ジョイント復帰用)	0 0 1 1 1-0 0 6 0-3 5 0 0 2 3 1 1-4 0 0 1-0 6 0	各1	-	
35	シェアボルト (M6X35 8T) ナイロンナット (ジョイント用)	0 0 1 1 8-0 0 6 0-3 5 0 0 2 3 1 1-4 0 0 1-0 6 0	各1	-	
36	シェアボルト (M8X40 8T) ナイロンナット (タイトチェーン駆動用)	0 0 1 1 8-0 0 8 0-4 0 0 0 2 3 1 2-4 0 0 1-0 8 0	各1	-	
▼油圧					
37	ホース	-	各1	100時間毎点検し、破損している場合は交換	パーツリストP44~46
38	フィルタエレメント	-	-	100時間毎に点検し、汚れている場合は交換	取扱説明書P32
▼オイル					
39	ミッションのオイル0.5L (#90)	-	-	100時間毎交換	取扱説明書P31
40	油圧タンクのオイル30L (#68)	-	-	作業前に補給し、100時間毎で交換	取扱説明書P28
41	タイトチェーン用オイル4L (SAE5W-30)	-	-	作業前に補給	取扱説明書P29
42	ポンプ駆動チェン用オイル1.5L (SAE5W-30)	-	-	作業前に補給	取扱説明書P29
▼電装					
43	パトライト (電球: 12V5W)	-	4	100時間毎交換	
44	パトライト	-	各1	100時間毎点検、破損している場合は交換	パーツリストP42
45	ホーン	1 1 3 6 3-8 3 8 0-0 0 1	1	"	
46	センサー	-	各1	500時間毎交換	パーツリストP42、43
47	電源コード	-	各1	100時間毎点検、破損している場合は交換	パーツリストP42
48	ハーネス	-	各1	"	パーツリストP42、43
49	ヒューズ15A (コントロールボックス用)	0 0 9 0 0-0 1 0 0-1 5 0	1	-	
50	ヒューズ30A (電源コード用)	0 0 9 0 0-0 1 0 0-3 0 0	1	-	

※交換時期は目安であり使用状況などで変わりますので、注意してください。

付表

3. 油圧回路図

